



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp

## 令和3年(2021)1月新年挨拶



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては恙なく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年から新型コロナウイルス感染症対策で、桐生倶楽部の活動も今までにない対応を迫られております。第二波、第三波とその終息が定かではなく、これからも暫く続くものと云われておりますので、じっくりと「新しい生活様式」(桐生倶楽部の運営様式)を検討していかなければならないと思われま

す。新型コロナ下、桐生倶楽部会館の将来必要であろう本格的な保存修理事業に備えるための必要な補修工事が一昨年

進められております。安全確認の上ご覧下さい。また、桐生倶楽部の諸活動についても積極的に取り組まれますようお願いいたします。更には、桐生倶楽部において、まちづくりについての論議が進められればと思います。

本年2月の総会で新体制がスタートします。何卒、宜しくお願いします。

(森 壽作記)

## 美術部鑑賞会の報告

第1回部会で開催の決まった令和2年第1回美術鑑賞会を地元の大川美術館で開催した。参加者は8名であった。朝11時に、美術部のメンバーでもある田中館長の出迎えを受け、開催の背景が説明された。コロナ禍のため同じ企画の展覧会が数々中止に追い込まれた中で、幸運にも開催が実現したとのこと。

本展覧会は広島市現代美術館と大川美術館の共催で開かれ、Part1; 鬚光(あいみつ 1907-1946)と同時代の仲間達「Part2; 70年目の原爆の図」の2会期にわたる2部構成からなっており、広島市現代美術館と大川美術館の所蔵作品を中心にして昭和の時代を生きた画家を再検証している。前者の所蔵作品である鬚光(あいみつ 1907-1946)の人物画や静物画やデッサンの計50点が展示された。

鬚光は広島に生まれ、昭和の戦前期に活躍し、日本の油彩表現を体質化できた一人である。1944年に応召され、終戦後、上海で戦病死した。彼の作品は、量感豊かに描かれ、デフォルメされた静物画や人物画やデッサンなどから成る。同時に展示された同世代の画家としては、長谷川利行の鬚光像、大川美術館所蔵の松本竣介作の自画像の他に、井上長三郎、山崎商、麻生三郎らの作品があった。なおPart2は1月16日から3月15日まで開催される。



併設展として、桐生市在住の彫刻家丸尾康弘氏の木彫作品群とスケッチから成る「いま、こどもたちが」が開催

され、木目や木のうろを巧みに生かし、静けさをたたえた作品群が清純さと愛らしさで、会場を満たしていた。

コロナ騒ぎで1年近く遠ざかっていた美術展に久しぶりに接することができ、満ち足りた心地で紅葉の水道山を後にした。(山口 一郎記)

### 11月歩く会例会 「赤城鈴ヶ岳」

11月の歩く会例会は、日頃お天気の見込みや気候の変化の目安として、常に意識している赤城山を選びました。

赤城山の7峰のうちで、唯一桐生からは見えない赤城山の外輪山の西に離れて釣鐘状の山容をしている、赤城鈴ヶ岳に行ってきました。

今回はコロナ禍の意識もあり、参加者は6名でした。2台の乗用車に分乗して、

7:00に桐生倶楽部を出発しました。天気は2~3日前の寒さが嘘のような穏やかな秋晴れでした。8:00に白樺牧場の登山口に到着し、10分位で準備を済ませ頂上を目指して出発しました。直ぐに急な登りになりましたが、20分位で稜線に出ました。そこからは東側は眼下に大沼、西側には渋川の町並みの上に雲海が広がっていました。9:00に鍬柄山に着いた時には気温が上がり、皆が上着を脱ぎ休憩しました。そこからは、雪化粧した富士山が吾妻山から見るより数倍大きく見えました。風もなく、爽快な気分になりました。



そこからは、アップダウンが続き、痩せ尾根あり、岩場のチェーン場所が数か所あり、結構体力を使いました。10:00には鈴ヶ岳頂上に着きました。途中道の傍に幣束が所どころありました。頂上には、鈴嶽山神社、赤城山神社、愛宕山神社の山岳信仰の石碑が鎮座しているのを見ると、幣束があったのもうなずけました。到着時間が早かったので、20分ほどここで休憩して下山を開始しました。

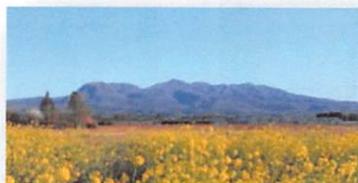
再び、鍬柄山まで戻りそこで昼食にしました。ここでゆっくりと回りの紅葉を楽しみました。そこで、偶然にも吾妻山

で顔見知りの人に出会いました。12:00には登山口に戻りました。計画の時間より、1時間ほど短縮してました。

帰りには、馬事公苑近くの富士見の湯でゆっくりと疲れを癒し、2:30に無事に桐生倶楽部に着きました。

コロナ禍での来月の山梨行き、忘年会を皆で心配しながら解散しました。

好天気に恵まれた赤城鈴ヶ岳、意外と大変でしたが楽しい山行でした参加者の皆様ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。(腰塚 富夫記)



### 桐高・桐女合同絵画展 開催しました

一昨年12月に両校の美術部(桐女は芸術部美術班)が会館本館をスケッチし、6月に絵画展を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス拡大による学校休業とクラブ活動の制約などから同月の実施を断念し、倶楽部のホームページでのウェブ展覧会に切り替えておりました。その後、両校顧問の原澤先生とご相談し「桐生倶楽部会館創建100周年企画『桐高・桐女合同展』」を12月12日(土)、13日(日)にコロナウイルス感染予防策を講じて別館にて開催いたしましたのでご報告します。

森理事長の開会挨拶でオープンした展覧会には、2日間で約110人の来館者がお見えになり、多くの方が桐生倶楽部本

館をモチーフにした30点余の作品を含む60点ほどの高校生の絵画に見入っていました。

半世紀ほど前に実施された桐生地域高校美術部展覧会開催の思い出話を元桐女美術部の“先輩”の来館者が語りかけ、生徒が耳を傾けるシーンもありました。本館の1階、2階ともに南側が修繕中であり安全面を考慮して別館開催となりましたが、別館も文化的な展示に相性のよい部屋であることが分かり、会館全体の活用の可能性を感じました。

とはいえ、別館の机と椅子は大きくて重いため、部屋から出さないこととし、生徒たち発案のレイアウトによる展示となりました。また、顧問の原澤先生のご指導のもと、両校生徒が主体となって、チラシやポスターの制作と配布、看板作りを行い、当日は受付、案内など積極的にこなしておりました。



今後、絵画のみならず写真や書など高校生の作品の展示ができると良いのではないかと思います。

今回は諸制約からイーゼル中心の展示とし、イーゼルの大半は学校のものを利用しながら、倶楽部が新規購入した軽量

で持ち運びやすく、操作も簡単なイーゼルも9台購入し使用しました。2階にあるパネルは大変重く、設営に苦勞が多いですが、このような便利なイーゼルを使ってロビーや1階の部屋、別館などでも気軽に作品展示ができるようになったと思います。

各文化部の皆様をはじめ社員各位の作品発表にご利用いただければ幸いに存じます。

なお、桐生倶楽部会館の作品の一部を額装して本館に飾る予定ですので改めてご案内いたします。(村田 勝俊記)



12月3日東小3年生見学  
(村田理事によるレクチャー)



褒章受章者

田中義弘さん  
旭日単光章 2020 春



小滝芳江さん  
旭日双光章 2020 秋



＝桐生倶楽部だより＝

【12月】

- ・長期修繕計画委員会 (3日)
- ・理事会 (7日)
- ・美術部鑑賞会 (9日)
- ・写真部会 (9日)
- ・桐高・桐女絵画展 (12日・13日)

【1月】

- ・歩く会例会「吾妻山」 (10日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・会報委員会 (22日)

【退会社員】

- 森 茂弘
- 青山 正敏 (ご逝去)
- 河原井 弘
- 海野 好美

一般社団法人 桐生倶楽部 第241号  
 2021年 (令和3年) 2月発行  
 発行人 森 壽作  
 編集責任者 坪井 良廣  
 版下製作者 桑原 志郎

# 令和3年度 定時社員総会

日時：令和3年2月25日

一般社団法人 桐生倶楽部

# 次 第

1. 開会のことば

1. 総会成立報告

1. 理事長あいさつ

1. 議長選任

1. 議事録署名人選出

1. 議 事

第1号議案 令和2年度 事業報告

第2号議案 令和2年度 決算報告  
令和2年度 公益目的支出計画実施報告  
監査報告

第3号議案 役員改選  
正副理事長互選  
新理事長挨拶

第4号議案 令和3年度 事業計画案

第5号議案 令和3年度 収支予算案

第6号議案 令和4年度 収支暫定予算案

第7号議案 その他

1. 閉会のことば

# 令和2年度 事業報告

自 令和2年1月1日  
至 令和2年12月31日

一般社団法人 桐生倶楽部

- 社員総数 229名（名誉社員0名、正社員229名）  
内訳（法人14社、個人215名）
- 入社 4名（内法人0）
- 退社 11名（内法人0）
- 行事・集会 54回  
新年互礼会1回、文化祭中止（絵画・写真展中止、ゴルフ大会中止、麻雀大会中止、囲碁大会中止） ガーデンパーティー中止、  
クリスマス祭中止、総会1回、理事会10回、  
正副理事長会議1回、  
正副理事長＋総務委員長＋会計理事会議2回、  
正副理事長＋会計理事会議1回、  
正副理事長＋長期修繕計画委員会議1回、  
次年度正副理事長予定者会議1回、  
役員特別懇談会中止、  
監査会1回、消防訓練2回、  
桐高・桐女合同 WEB 展覧会1回、桐高・桐女合同絵画展打合せ2回、  
桐高・桐女合同絵画展1回、  
月次会1回、
- 委員会 11回  
（文化活動委員会中止、行事・交流委員会中止、営繕委員会中止、  
会報委員会6回、総務委員会中止、社員増強委員会中止、懇話会中止、  
長期修繕計画委員会4回、文化資産小委員会1回）
- 部会 17回  
（歩く会3回、歩く会世話人会8回、ゴルフ部会中止、  
写真部会1回、美術部会2回、麻雀部会中止、  
囲碁部会中止と毎週土曜日碁会一部中止、ぶらりまち歩き部会3回、  
音楽鑑賞部会中止、旅行部会中止、歴史探訪部会中止）
- その他 会報6回発行

令和2年度

室別使用状況

月	広 間	1 号	2 号	4 号	5 号	6 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	全 館	テ ラ ス	合 計
1 回数(回)	12	4	5	0	0	8	1	0	0	0	0	30
月 人数(名)	387	48	27	0	0	41	20	0	0	0	0	523
2 回数(回)	9	7	3	0	0	9	1	0	0	1	0	30
月 人数(名)	262	112	22	0	0	43	18	0	0	10	0	467
3 回数(回)	1	2	3	0	0	5	1	0	0	0	0	12
月 人数(名)	50	29	32	0	0	19	18	0	0	0	0	148
4 回数(回)	1	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6
月 人数(名)	10	49	0	0	0	3	0	0	0	0	0	62
5 回数(回)	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
月 人数(名)	31	12	5	0	0	0	0	0	0	0	0	48
6 回数(回)	9	5	1	0	0	2	0	0	0	0	0	17
月 人数(名)	110	39	3	0	0	14	0	0	0	0	0	166
7 回数(回)	8	6	2	0	0	1	0	0	0	0	0	17
月 人数(名)	146	51	10	0	0	5	0	0	0	0	0	212
8 回数(回)	7	8	3	0	0	1	0	0	0	1	0	20
月 人数(名)	103	72	12	0	0	6	0	0	0	13	0	206
9 回数(回)	8	8	3	0	0	1	0	0	0	3	0	23
月 人数(名)	247	73	14	0	0	6	0	0	0	25	0	365
10 回数(回)	6	11	5	0	0	7	0	1	0	0	0	30
月 人数(名)	164	109	18	0	0	31	0	21	0	0	0	343
11 回数(回)	10	6	0	0	0	10	0	0	0	2	0	28
月 人数(名)	190	75	0	0	0	41	0	0	0	6	0	312
12 回数(回)	5	5	0	0	0	8	3	0	2	1	0	24
月 人数(名)	75	58	0	0	0	31	151	0	9	13	0	337
合 回数(回)	78	67	26	0	0	53	6	1	2	8	0	241
計 人数(名)	1,775	727	143	0	0	240	207	21	9	67	0	3,189

# 監 査 報 告 書

令和2年度決算報告書の各事項について監査したところ、  
その内容は適性なものと認めました。

令和3年2月1日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

監 事 阿部高久 

監 事 酒井 豊 

監 事 久保田 秀典 

# 公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 桐生倶楽部  
理事長 森 壽作 殿

令和3年2月1日

一般社団法人 桐生倶楽部

監事 阿部高久 

監事 酒井 豊 

監事 久保田 寿保 

私たち監事は、令和2年1月1日から令和2年12月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

## 2 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

# 役員改選

## 新理事（案）

山 口 正 夫	北 川 洋	坪 井 良 廣
根 津 紀久雄	前 原 勝	藤 江 篤
岸 田 信 克	宮 地 由 高	村 田 勝 俊
水 越 稔 幸	小 林 康 人	栗 原 信 治
森 末 廣	桑 原 志 郎	高 梨 静 江
市 川 孝 江	堀 明	田 中 一 枝
須 永 博 之	彦 部 篤 夫	

## 新監事（案）

酒 井 豊 阿 部 高 久 久保田 寿 栄

## 新顧問（案）

阿 部 高 久 森 壽 作

# 令和3年度 事業計画（案）

## 1. 理事会（毎月）・役員特別懇談会（年2回）・監査会（年1回）

## 2. 主な行事

1月	新年互礼会(中止)	歩く会例会	
2月	社員総会	歩く会例会	
3月	月次会	歩く会例会	
4月	月次会	歩く会例会	
5月	文化祭（絵画・写真等）	ガーデンパーティー （ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等）	歩く会例会
6月	月次会	歩く会例会	
7月	月次会	歩く会例会	
8月			
9月	月次会	歩く会例会	
10月	月次会	歩く会例会	
11月	月次会	歩く会例会	
12月	クリスマス祭	歩く会例会	

## 3. 委員会

### 1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(10部会)  
美術部会・麻雀部会・囲碁部会・ゴルフ部会・歩く会・  
写真部会・音楽鑑賞部会・旅行部会・歴史探訪部会・ぶらりまち歩き部会

### 2) 行事・交流委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

### 3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全
- ・修復事業のあり方

### 4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行
- ・社員名簿の作成

### 5) 総務委員会

- ・会館の貸借に関する件
- ・来訪者、入退会に関する件
- ・会費の徴収・文書処理に関する件
- ・消耗品の購入に関する件

### 6) 社員増強委員会

- ・社員増強拡大

### 7) 懇和会（懇話会を創設当時の懇和会に戻しました）

### 8) 長期修繕計画委員会

# 寄 付 芳 名 録

令和2年度

12月 文化財保護負担金  
(100,000円)

公益社団法人 桐生青年会議所  
理事長 中 静 一 浩 様

一般社団法人桐生倶楽部  
定時社員総会報告

令和3年度定時社員総会は2月25日午後6時30分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は水越理事の司会で、坪井副理事長の開会の言葉に続き、全社員223名中178名(委任状155名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認したとの報告がなされた。森理事長の挨拶のあと、前原副理事長が議長となり議事に入った。

第1号議案	令和2年度 事業報告	(坪井副理事長)
第2号議案	令和2年度 決算報告	(村田理事)
	監査報告	(阿部監事)
	令和2年度 公益目的支出計画実施報告	(村田理事)
	監査報告	(久保田監事)
第3号議案	役員改選	(森理事長)
第4号議案	令和3年度 事業計画案	(藤江理事)
第5号議案	令和3年度 収支予算案	(市川理事)
第6号議案	令和4年度 収支暫定予算案	(市川理事)

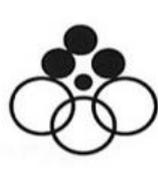
第1号議案から第6号議案の各議案のすべてが承認された。

水越理事の閉会の言葉のあと7時20分閉会となった。

なお、総会終了後臨時理事会が開催され、正副理事長が選定された。  
承認された理事及び監事は下記のとおりです。(太字は新任)

理事長	坪井 良廣			
副理事長	宮地 由高	藤江 篤	水越 稔幸	
会計理事	村田 勝俊	市川 孝江		
理事	山口 正夫	北川 洋	根津紀久雄	前原 勝
	岸田 信克	小林 康人	栗原 信治	森 末廣
	桑原 志郎	高梨 静江	堀 明	田中一枝
	須永 博之	彦部 篤夫		
監事	酒井 豊	阿部 高久	久保田寿栄	

以上



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp

## 定時社員総会を終えて

去る2月25日に開催された定時社員総会は、定刻通り、坪井副理事長の開会のことばで始まり、司会の水越理事が定足数により総会成立を告げました。

森理事長のご挨拶では、4年間に渡り理事を始め全社員の方々のご協力により無事に任期を全うし、100周年記念行事も立派に開催された事への感謝の言葉を述べられた。会館の各所修繕事業も着々と進展し、また、桐高女美術部による展覧会も実現出来たことを心から喜ばれた。最後に、この桐生倶楽部創立に尽力された森家のご先祖にあたる森宗作氏への感謝の言葉でご挨拶を終えました。

さて、議事進行に当たっては、誠に光栄にも私を議長にご指名頂き、ここに副理事長としての最後のお役目を果たす事になりました。議事は、坪井副理事長の事業報告に始まり、村田会計理事の決算報告並びに阿部監事の監査報告。公益目的支出計画実施報告並びに久保田監事の監査報告で無事に可決承認されました。

次に、役員改選では、新たに理事として須永博之氏と彦部篤夫氏が着任され新たな理事会メンバー全員満場一致で承認されました。続いて互選により、坪井良廣新理事長を始め、宮地由高副理事長が留任、藤江篤副理事長並びに水越稔幸副理事長が新任となりました。



坪井新理事長から森前理事長へ感謝状・花束贈呈

新年度の事業計画案が藤江副理事長より、市川会計理事からは、収支予算案並びに次年度の暫定予算案がコロナ終息への期待を込めて示され、それぞれ満場一致で承認されました。

以上、総会出席者全員のご協力によりスムーズに予定の議案が可決され議長の座を下りた私も最後のお務めが無事終了し、感無量でした。  
(前原 勝記)

## 桐生倶楽部理事長就任挨拶

理事長 坪井 良廣

このほど、令和3年度総会にて桐生倶楽部理事長に就任いたしました。私は、浅学非才であり、素晴らしい歴代の理事長の後を継いでゆくのは大変だと感じております。社員の皆様どうぞよろしくお願ひします。

桐生倶楽部会館は、会館を拠点に社員同士



の茶の間として、様々な活動を行ってまいりました。一方で、時代に合わせ、一般公開し、活動形態も変わりつつあります。

桐生倶楽部会館は、桐生市の歴史的遺産であり、「木造 2 階建て寄棟造で、橙色の瓦屋根やモルタル塗りの外壁、列柱のある玄関ポーチ、小さな切妻屋根をのせた煙突」など、日本で最初のスパニッシュ様式の意匠など洋風な外観を表し、内部には、随所に、大正ロマンを感じる調度品、「シャンデリア、ステンドグラス、照明の付け根のデザイン、スイッチやボタンの形状や金具、天井の漆喰模様、ガラスのゆがみ、壁紙」など、近代の桐生人の高貴な雰囲気やモダンな生活ぶりを今に伝えます。

桐生倶楽部会館は桐生市の歴史的遺産であり、会館を次代に引き継いでいくことは、我々の大きな使命であります。103年を迎える今、使用しながら守る文化財として、これからも、人が集まり、郷土の発展を語り合う場所。桐生懇和会の創始の精神が変わらず息づき、次代に引き継いでいくことは、我々の大きな使命であると思います、永く続けてゆきたいと思えます。

### 桐生倶楽部会館 建設から 100 年を向えて

桐生倶楽部会館（以下会館とする）建設より 100 年を向かえるに当り森壽作理事長は、会館を今後 100 年保存する事を考え正副理事、建築専門委員を含む長期修繕計画委員会（以下委員会とする）を設置した。委員会により外観、内観及び耐震性能等の

調査を進めた結果、外観の劣化が特に酷く、保存の為には雨水の侵入を防ぎ会館が朽ちるのを防ぐ事とする。修復するに大切な事は、桐生市の重要文化財あり今後、群馬県及び国の文化財に指定される事又桐生市の文化の中心でシンボルである事を視野に入れ改修する必要があると結論がでた。外観特に上げ下げ窓や木部飾り枠等の劣化が酷くここを中心に調査し改修する計画をたてる。



上げ下げ窓は、塗装が剥げ、窓枠が痩せ隙間があき、ガラスを止めるパテはほぼ脱落しガラスがはずれんばかりであった。木部飾り枠、軒天井等の塗装は剥げ、朽ちる寸前であった。この状況を放置して置くと雨水等の侵入により腐れが発生して会館は、大変な事になる。速やかな改修工事が必要となる。結果を、踏まえ実施計画をたてる

1. 実施に向けての設計及び予算のまとめ
2. 実施方法（施行計画）
3. 桐生市文化財保護課との調整

以上の結果、施行範囲及び予算を踏まえ改修順位を決める。劣化のひどい南側面、一号室、を優先しその後、道路に面した北側面、東側面、西側面を五カ年で補修する。



令和 2 年初年度に取り掛かるに当り、施工業者の選択は、多くの文化財の修復実績のある当社員

でも大澤木工有限会社に依頼する事になる。工期 令和 2 年 11 月 12 日から令和 2 年 12 月

23日まで 予算は、1,842,500円（消費税込み）でスタートする。工事を始めると想像以上に困難を期すが大澤木工の卓越した技術により工事は進む事が出来た。令和2年12月23日に無事完成する事となる。

今回の工事で思った事は、始めて文化財の保存工事を行い修復の難しさや大切さを身に持って感じました。保存の為今後会館の定期的な検査を行い劣化度の把握が必要であり文化財の保存工事の大変さと必要性を持ちつづける事である。次回に向けての大切な経験と成りました。完成した南側面及び一号室は、創建当時を思わせる素晴らしい姿を見せています。是非とも一度中庭からご覧成って下さい。



今回は、理事及び長期修繕計画委員会のメンバー、関係者の皆様のお陰で素晴らしい会館に生まれ変わりました。皆様に感謝、有難う御座いました。お礼を申し上げます。

（堀 明記）

### 歩く会 1月例会 —吾妻山—

1月例会は、コロナが非常事態宣言下であり、歩く会委員会で慎重に検討して、屋外である事とマスク着用と三蜜に注意等コロナの感染防止に注意して登ろうと決まり、決行しました。

1月10日、吾妻公園駐車場に8名の参加者が集合しました。駐車場はすでに満車で、

道路まで車はあふれていました。互いに、新年の挨拶を交わし今年の抱負などを話しました。歩く会委員長の栗原様より、新年のご挨拶と今日の簡単な行程の説明を受けました。

準備体操ののち、集合写真を撮り、9時30分に晴天の中、出発しました。10時00分にトンビ岩に到着、多数の人とすれ違いました。ここで、2名が下山。ここから右に進んで、杉林の中に数年前に出来た迂回路から、登ることにしました。この道はなだらかな登りでもとても楽に進めました。途中にある看板の所で本道に合流しました。10時30分前後に頂上に着きました。そこは、沢山のグループや登山者が一杯でした。ここで暫く休憩を取り、遠く真っ白な帽子をかぶった富士山、スカイツリー・新宿の超高層ビル群をゆっくりと鑑賞しました。その時、違うルートから1名が現れて、ビックリするやら驚きで大変でした。

例年ですと、女吾妻を経由して村松沢を降りて新年会会場で集合のうえ新年会でしたが、今年はコロナ禍ですので、新年会は中止にしました。ですので、ここで記念写真を撮影して解散とし各自で下山することにしました。6名が村松沢方面に、10時45分出発しました。11時45分に吾妻公園駐車場に6名が無事に着きました。好天に恵まれた山行を感謝しながら今年もコロナに負けないで、歩く会が実践出来るように祈りながら、帰路に着きました。

今年も「歩く会」の行事に多数のご参加をお待ちしております。（腰塚 富夫記）



歩く会 2月例会  
八王子丘陵から重文・彦部屋敷

今回の尾根歩きは参加者11名で県道を  
靱山峠に向けて歩き始める、普段は自動車  
で通るだけだが峠までは結構距離もあり又、  
相当な登りである。途中、南公園駐車場で小  
休止の後登山口へ進む。登山口は峠を越えて  
藪塚側に少し下ったところで、ここから一  
気に登って尾根道へ、この尾根は静かな所  
かなと思いきや、いやはや結構人気のよう  
でトレイルランや多くのハイカーに出会  
いました。この八王子丘陵は靱山峠を境に  
西側丘陵の茶臼山(293,9m桐生市)と  
東側丘陵の唐澤山(261,1m太田市)で  
人気のようで、出会った女性のグループ  
は渋川からの山行で冬場は桐生周辺の山  
に良くきて、今日は唐澤山が目的との事、  
この尾根道は標高が低いことから周辺へ  
の視界の関係かもしれないが歩きやすい。  
下りは賀茂沢峠から賀茂沢を法楽寺裏  
から賀茂神社前を出てここから重文・彦  
部屋敷に向かう。いつ訪れても歴史を感  
じさせてくれる彦部屋敷では参加の当主  
彦部さんから冬住み・母屋・屋敷神・蔵  
等を移動しながら屋敷構えや特徴・歴  
史等々を丁寧な説明と質問にも受け  
応えていただきありがとうございました。  
帰路は彦部屋敷搦手口から広沢5丁目  
集会所前バス停まで見送っていただき、  
待時間を利用して解散してバスに乗車、  
新桐生駅で梅田線に乗り換えて参加者  
それぞれの最寄りのバス停で降車して  
いただきました。昨年2月の例会は天候  
不順でそれ以後コロナ過で行事の中  
止も多々ありましたが、今年は良い予  
感がしています。参加の皆さんありが  
うございました。(新井晴夫記)



## ようこそ倶楽部へ

=新入社員紹介=

(敬称略)



### =桐生倶楽部だより=

#### [2月]

- ・監査 (1日)
- ・理事会 (8日)
- ・歩く会例会「八王子丘陵と彦部屋敷見学」 (21日)
- ・歩く会世話人会 (24日)
- ・定時社員総会 (25日)

#### [3月]

- ・理事会 (8日)
- ・会報委員会 (23日)
- ・歩く会例会「桜の太平山ハイキング」 (28日)

#### [退会社員]

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 日野昇(ご逝去) | 茂木巖(ご逝去) | 宝田恭之(ご逝去) |
| 桐生プリオパレス | 中島美代子    | (株)競艇タイムス |
| 松枝幹      | 新見祐三     | 北川肇       |

一般社団法人 桐生倶楽部 第242号  
2021年(令和3年) 4月発行  
発行人 坪井 良廣  
編集責任者 桑原 志郎  
版下製作者 桑原 志郎



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp

## 4月月次会

**感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生**  
将来都市像 桐生市第六次総合計画について

桐生倶楽部月次会は新型コロナウイルス感染拡大の為、休会がしばらく続きましたが、4月は感染状況を考慮し、人数制限等感染防止策を徹底しての開催となりました。

令和2年3月「桐生市総合計画審議会」が「桐生市第六次総合計画」を策定し、その会長を務め、また桐生倶楽部社員でもある宝田恭之先生（群馬大学大学院理工学府）に最初に桐生倶楽部で講演していただくことと昨年4月の月次会を計画していました。しかし感染蔓延の為、残念ながら中止となりました。桐生市にとって大変重要なテーマで、今年こそお話ししていただきたいと準備していましたが、大変残念なことに先生は2月ご逝去されました。4月の月次会は審議会副会長として先生と一緒に計画を策定した新居理恵様とその当時「桐生市総合計画審議会事務局」桐生市共創企画部企画課 企画戦略担当 主任 小松直也氏にお話しいただくこととしました。

山口理事の司会で理事長挨拶、新入社員の石原雄二さん、金子幸弘さんの紹介並びに自己紹介が行われた後に、講師2名の紹介が行われました。講演では、最初に新居理恵様より、この計画が目指す将来像がどの様に形作られ、宝田会長はじめ審議会メンバーの真剣な議論の様子を話していただきました。一字一句にこだわり、桐生に暮らす人々が自分の



こととして捉えられる内容にしたいとの思いで話し合った。先人たちが培ってきた伝統・文化・産業・教育そして豊かな自然があり、感情豊かな人たちが新たなまちを作っていくことができる。これが桐生市として目指す理念「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」となりました、と熱く語っていただきました。次に小松氏に「桐生市第六次総合計画」の具体的な内容、及び今後の取り組みについて資料に基づき説明していただきました。

計画の期間は、基本構想は8年間、基本計画は前期、後期各4年間（これは市長在任期間を考慮してとのこと）まちづくりの基本テーマ（理念）将来都市像の実現に向けたまちづくりの基本的な考え方

### 1 “感性”を育む人づくり

（桐生の優れた環境を生かし、世界に羽ばたく人材を育てる）

### 2 “つながり”を生かしたまちづくり

（市域を越えて様々なつながりを生かしたまちづくりに取り組む）

また人口の将来展望は人口減少の抑制を目指して2027年の目標を約99,600人とする。

施作の大綱として市民の幸福実感度の向上を目指すと共に、持続可能な開発目標の達

成につながる6大綱を定め、6つの方向性に基づき分野ごとに施作を展開していく。

#### 1 産業経済の振興

(都市の活力を向上させるためには、産業経済の発展が不可欠 まちのにぎわいづくり、居住地として選ばれるための仕事づくりという観点からもその振興は不可欠)

#### 2 福祉・健康の増進

(すべての市民が安心して充実した生活を営むことができるよう、福祉・健康・医療の公的サービスの充実を図る)

#### 3 教育・文化の向上

(まちづくりの原点は人づくりにあることから、市民の心の豊かさを育む)

#### 4 生活環境の向上

(全ての市民の安全・安心な暮らしを実現し、持続可能な市の実現を目指す)

#### 5 都市基盤の整備

(自然環境との調和や市民生活の利便性向上を踏まえた都市設計により、持続可能な都市の形成を目指す)

#### 6 計画推進のために

(多様な資源や民間活力を有効活用。また開かれた行政を目指す)

上記の6大綱を説明いただき、最後に「感性育み 未来織りなす 粋なまち桐生」の実現に向けて一緒に新たなまちづくりを進めまじょうと話されました。(栗原信治 記)

#### 3月歩く会例会

#### —桜の名所太平山を訪れる—

3月の歩く会は桜で有名な栃木の大中寺、太平山を訪れました。ここは10年前の4月10日に訪れています。その時は2~3分咲きで、大変寒かった記憶があります。しかしこ

こ数年桜の開花が早くなっているのです、今年は3月中の山行にしました。28日7時30分参加者7名、車で桐生倶楽部を出発。前日まで良い天気が続いていましたが、今日は一転曇り空で昼頃から雨の予報。予定を早めての山行となりました。8時30分太平山山麓の大中寺に到着。上杉謙信の叔父が住職を勤めた記録があり、また小説にも登場する12世紀創建の有名な古刹です。境内では大きな白色の桜、うすピンクのソメイヨシノそして濃いピンクのしだれ桜が満開で、3色の取り合わせがとても綺麗でした。ここからぐみの木峠まで登りが続きます。以前の大雨の影響でしょうか、登山道が荒れていて、歩きにくく、このルートは今あまり使われていない様子です。9時40分ぐみの木峠に到着、しばし休憩。ここから太平山迄は平坦な尾根道になります。歩き始めて暫くすると雨がぽつぽつ落ちてきたので、太平山山頂には登らず、太平山神社へ急ぐ。太平山神社は9世紀に創建され「天下太平を祈る社」として、古くから信仰をあつめています。境内には本殿のほか多くの神社があり各々ご利益があるとのこと、我々参加者も順にお参りをしました。そこから近くにある桜の名所の謙信平に向かう。ここは関東平野が一望でき、上杉謙信がその眺めに感歎したと言い伝えがあり、謙信平と呼ばれるようになったとのこと。曇り空のため残念ながら眺望は期待外れでしたが、桜は7~8分咲きの大きな木がたくさんあり、とても素晴らしい景色でした。桜の下で昼食をとり、11時30分謙信平を出発。予定より早く13時前に桐生倶楽部に到着しました。(栗原信治 記)



## 桐生倶楽部・アーカイブ 第1回

今回から4回シリーズで桐生倶楽部の会報や重要文書などから興味深いコンテンツをご紹介します。今回は昭和41年3月10日発行の桐生倶楽部会報第2号に寄せられた遠田安蔵さん（執筆当時54歳）の随筆です。遠田さんは完成して間もない桐生倶楽部会館と周辺の景色や体験を色どり豊かに語っています。また、奥様との桐生倶楽部での出会いや真尾源一郎さん（創立社員）をはじめ社員諸氏との交流のエピソードも書かれています。遠田さんにとって倶楽部はかけがえのないところであったのではと感じる次第です。なお、桐生倶楽部会報は第1号から現在に至るまで倶楽部のホームページでご覧いただけます。

## —倶楽部と私— エンダヤスゾウ

私が桐生東尋常高等小学校に入学した頃桐生倶楽部の建物が建てられました。濃いオレンジ色の屋根に、赤みがかったクリーム色の壁、近くのくすんだ背の低い家屋に比べてその異国風な建物はとてもきれいでした。

小学校の正門の前に組合教会ができたのもその頃で毎日曜に日曜学校に通いました。教会の左手ずっとはるかに、お化柳と赤い鉄橋が見えて汽車が通るのを見られました。

校外写生の時間に青い麦畑を前景に取り入れてクラブを好んで描いたものでした。すみれやれんげの咲いている畔道に腰をおろした私の目の前を大きな青大将がスルスルと通りぬけて行きました。その青光りのした姿に思わず肝を冷やしたことをはっきり憶えています。レコード・コンサートやマンドリンの演奏会の時、受持の音楽の先生に連れられて倶楽部にいったこともありました。

雷電山の下の中学校にはいるとクラブとしばらく、ご無沙汰になりました。昭和8年東京での学生生活をおえて帰桐し、ある日、本町2丁目の真尾源一郎さんのお宅にお伺いしました。その時桐生倶楽部について色々お聞きしました。それから真尾さんのご紹介で社員の末席に加えて戴きました。



私が始めて家内に会ったのは、クラブの二階のホールで日本舞踊の催しがあった時でした。姉等に付き添われた彼女と階下の四号室で言葉少なに話をしましたが憶えていることは彼女がほっそりとしていてお人形のようにスマートな娘さんだったということです。

戦争中は倶楽部の中に市の商工経済会の事務所があつて私の妹もそこに勤めておりました。タイムスの木村社長さんも御一緒でした。家が近いので倶楽部の会合には時折出席致しました。寒いクリスマスの晩に燃料が無くて、オーバー、襟巻に身を固めてふるえながら集ったこともありました。倶楽部を通じて沢山の先輩の方々に親しんで戴けたことは感謝にたえません。

これからは社員の御夫人方の為に社員夫人会を作られては如何でしょうか。家族会やクリスマスの集りとは別に時々奥様方だけの集りは、きっと有意義な会となるでしょう。懐しい倶楽部の建物も狭く又、老朽化してきました。改築か増築もま近いことでしょう。全館冷暖房で幾つかの和室もあつて、しかも近代的に能率的な設備は何んでもある、そんな楽しい建物の実現を夢みております。

（ちょっとひとこと欄）

文中、東小学校の正門の前に組合教会ができたとありますが、これはひょっとするとヴォ

ーリーズの設計によるものかもしれません。というのも山形政明著『ウィリアム・メレル・ヴォーリーズの建築』（創元社、2018年）の建築作品リストの中に「1919年桐生教会 桐生（群馬）」とあるからです。桐生倶楽部会館と同じ1919年にヴォーリーズ設計の教会が完成したということが分かります。当時、桐生倶楽部の2階から教会の建物が見えたかもしれません。

ヴォーリーズは多くの教会を設計しましたが、関西学院やマッケンジー邸などスペイン風建築もたくさん手がけました。日本でのスペイン風建築の草分けである当会館としても親しみを感じる名建築家です。

（文化財研究委員会：村田勝俊 記）

#### 歩く会4月例会

#### 経塚山から崇禅寺ハイキング

「今日は良かったね」、「そうあの抹茶が美味しかった」と云ういろいろな声。山の高さ、歩いた距離、時間、木々の間から見える風景、山道の感触、汗かきの状態、疲れ等の全てが物足りないでも、十分でもない適度に満足であったことの感想ですかね。

経塚山は相川橋から川内に向かい正面右側に大きく存在し、頂上からなだらかに右側に流れる裾野の山容で、標高340m、標高差約200m（この付近の標高140～150m）を整備された山道を小休止をとりながら登ること約35分で頂上、頂上から南を見れば相生・広沢町の街並みと正面に茶臼山が目に入る。頂上からの尾根歩きでは右下には2丁目（通称・小倉）、左下には5丁目（通称・仁田山）を見ながら歩き、自然観察の森への道から右に分かれて崇禅寺裏山の尾根を下り経塚山から約70分で崇禅寺境内。休憩は本堂裏で庭園と阿弥陀堂を見上げながら抹茶

茶をいただきました。今回は2月と同様、おりひめバス利用の移動で、募集時は桐生駅北口発am9:00でしたが、4月の時刻改正で8:15に変更のため参加者にその旨の連絡、世話人の二人（腰塚・新井）は川内町在住のことからバス停（むつみ橋入口）で参加者を出迎え、登山口の赤城神社へ移動して本殿前で参加者全員の記念の写真。崇禅寺では抹茶を頂いた後、県重要文化財の阿弥陀如来像の拝観と如来堂や牛塚の地名等由来の事並びに崇禅寺に係わるいろいろな出来事を住職から説明していただき「へーそうなんだ」と大変参考になりました。帰路は崇禅寺に別れとお礼を申し上げて、川内町2丁目西小倉



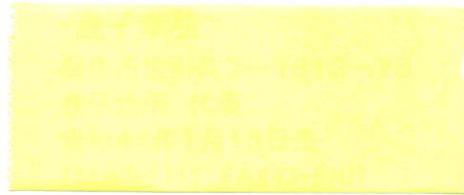
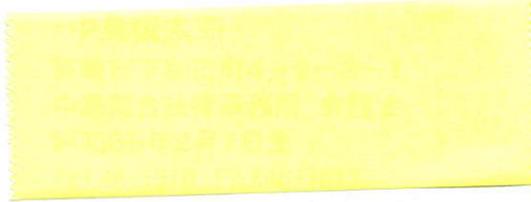
を散策気分バス停の小倉会館に向かい、途中で市指定文化財小倉の石仏を確認して小倉会館へ。今日はまだ参加者のサインが済んでいないのでバスの待ち時間を利用して、持参したサイン帳に小倉会館濡れ縁を借りてそれぞれの皆さんに記帳していただき12:00のバスで桐生駅北口に向けて出発し、今日の山行はすべて終わりました。いろいろありがとうございました。（新井晴夫 記）

一般社団法人 桐生倶楽部 第243号  
2021年（令和3年）6月発行  
発行人 坪井良廣  
編集責任者 桑原志郎  
版下製作者 桑原志郎

# ようこそ倶楽部へ

=新入社員紹介=

(敬称略)



## =桐生倶楽部だより=

### 【4月】

- ・歩く会世話人会 ( 1日)
- ・歩く会例会「川内経塚山・崇禅寺」 (11日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・月次会「感性育み・未来織りなす・粋なまち桐生」 (23日)

### 【5月】

- ・歩く会例会「ツツジ咲く熊鷹山・根本山」 ( 2日)
- ・歩く会世話人会 ( 6日)
- ・写真部会 ( 7日)
- ・理事会 (中 止)
- ・会報委員会 (27日)

### 【退会社員】

月門快憲 (ご逝去)



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp

## ご挨拶 桐生倶楽部 理事長 坪井良廣

令和2年に入って新型コロナウイルスが中国で猛威を振るっているとテレビで報道されました。1月は、他人事で時が流れていました。中国の武漢では都市封鎖が始まり、日本でもチャーター便で帰国者を連れ帰るなどあわただしい状況となりました。わが国でも感染者が増加し、春のお彼岸明けにはタレントの志村けんさんが亡くなるなど多くの人の感染に緊張感が走りました。4月初旬には、第一次緊急事態宣言が出され、テレビに映し出される繁華街の様子はまるでゴーストタウンのようでした。公共施設は封鎖され、スティホームを余儀なくされ、サークル・団体では行事や催し物を制限せざるを得ない状況が続いてきました。桐生倶楽部もその例にもれず、新年互礼会、ガーデンパーティ、文化祭、月次会、クリスマスパーティ等、主要な行事を実施できない状況が続いてきましたが、ここにきて感染状況に十分注意を払いながら、定員の50%を上限としつつ月次会を再開しました。公共施設が休館する中、例年2月に行われている桐生倶楽部総会は、コロナ感染防止対策を講じながら、皆様のご協力のもとつつがなく終えることができましたことは既報の通りです。一年延期となったオリンピックは無観客開催中心となりました。これからはワクチン接種

の進展が期待されるところです。一方、会館の維持保全につきましては、長期修繕計画に基づき窓等建具を中心とした修繕を進めています。また、近時の豪雨による雨漏りなど予期せぬ緊急修繕が発生しており、理事会、営繕委員会で内容を精査しながら逐次対応しています。従来同様ご理解ご賛同をよろしく願いいたします。末筆ながら社員の皆様の健康を祈念申し上げます。

## ツツジ咲く熊鷹山・根本山ハイキング —歩く会 5月例会—

5月歩く会例会は、熊鷹山・根本山へのハイキングです。朝7時全員揃っての出発。

コースは佐野からみどり市東町へ抜ける作原林道の峠を登山口として、水平道を十二山に登って根本・熊鷹山をピストンして帰る予定でした。林道に入り、ほどなく立入禁止の車止めが目に入りました。見ると、土砂崩れによる復旧工事で、6月までかかるとのこと。急遽予定を変更して、佐野市内から熊鷹山へ直登するコースに。道中あちこちに「ヤマビル注意」の立札が立っていた。清流の沢沿いの道は、前夜来の雨と高温とがヒルの動きを活発にさせたのか、全員がヒルの洗礼を受けた。但し、ご安心ください。一人も血を吸われた人はいなかったことをご報告申し上げます。沢を離れてしば

らく登ると、ピンクの可憐な花が一行を出迎えてくれた。ヤシオツツジである。熊鷹山は知る人ぞ知るツツジの名山で、山頂付近のツツジの群生の満開を想像すると、自然と足早になる。ヤシオツツジの満開を過ぎる辺りから上がっていくにつれ、膨らんだツツジのつぼみが目立つようになった。ついた山頂は、ようやくツツジの開花が始まったところで、改めて満開登山の難しさを思い知らされました。春の日の爽やかな風を感じながら、食べる山頂でのお弁当のおいしさは、格別である。時間の経過とともに乾いてきた下山道には、ヒルの姿は見えなかった。今回は、終生忘れられない例会になった。

(岸田信克 記)



### ツツジ咲く赤城山の

荒山・鍋割山 登山  
一歩く会 6月例会

6月の歩く会例会は、赤城の荒山・鍋割山です。朝7時、全員集合で桐生倶楽部を出発。荒山高原最寄りのひめゆり駐車場は、8時少し前の到着なのに既に一杯で、人気の様子が伺えます。程なく荒山高原目指して出発。木の階段の続く登山道に辟易した頃、ピンクのテープに魅せられて気づかぬうちに一般道を逸れて歩いていました。上級者向けのバリエー

ションルートは、斜度がきつく一行を悩ませました。悪戦苦闘しながらなんとか山道に着くと、そこは荒山高原から荒山へのルートの中で満開のツツジが私たちを出迎えてくれました。新緑の木々の間からヤシオ・東国三つ葉・山・どうだんのそれぞれのツツジが、今を盛りに咲き競い崇高な自然芸術の世界へ誘ってくれます。元女子山岳会長さんが、花の名山紹介の欄で荒山～鍋割山のコースを一推ししていたのも頷ける光景でした。急な岩場を過ぎると、荒山山頂です。天気心配があるので、足早に鍋割山に向かいます。荒山高原手前から雨が降り出しました。谷筋見渡すと低くたれ込めた雲が綿のように浮かんでいて、非日常の絵を現出します。40分ほどならかな山道を歩くと鍋割山山頂です。大勢の登山客が、広い山頂を埋めつくしていました。ここで昼食をとり、下山。桐生の到着は、2時前の早い帰りとなりました。

(岸田信克 記)



### 「ブータン王国の思い出」(2)

ブータンは立憲君主制の国であり、国王が国家元首となっている。また、チベット仏教を保護しており、政治と宗教が密接な仏教王国であり国や地方の行政

府の建物の半分は僧院となっている。  
2011年に国王夫妻が国賓として来日され、GNH（国民総幸福度）が有名になりTVで紹介された。2018年5月には秋篠宮家の眞子さまが答礼訪問をし、2019年8月に秋篠宮殿下ご夫妻と悠仁さまが訪問されて親交を深める様子が報道された。

ブータンの産業は農業と観光が主で9割が農民である。電力は水力発電で賄われており余剰の電力を輸出して外貨収入（輸出額のほぼ40%程度）を得ているとのことである。

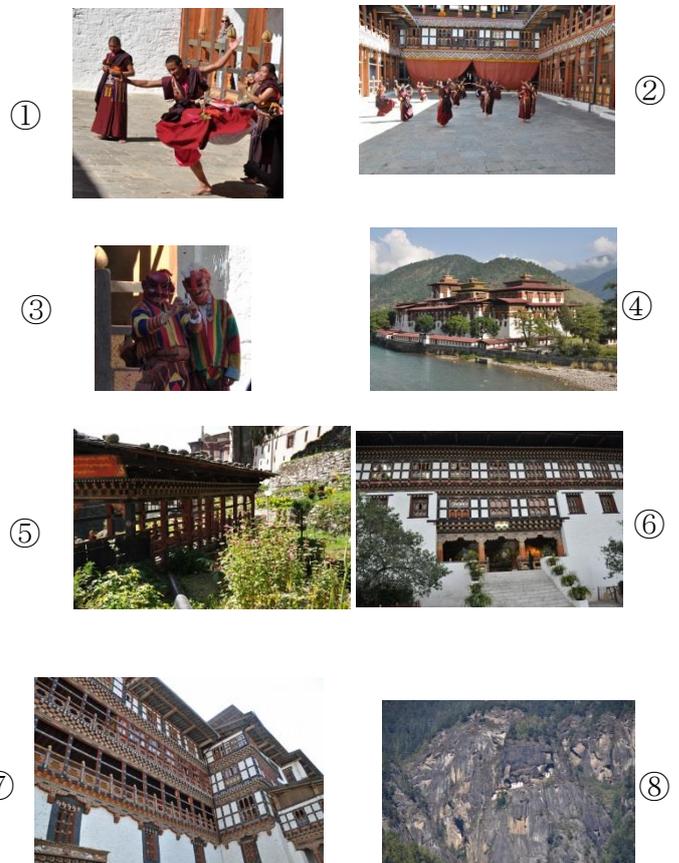
物価は二重価格制度となっており、外国人には、外国人価格が適用される（市場や町中の商店ではブータン価格だが）。航空券代金、ホテル代、レストランでの食事代金はドル建てで旅行会社をとらして、国家収入となり国家から現地通貨、価格で各部署に支払われようである。美しい自然と文化、仏教文化を守るために準鎖国状態と思われる（当時）。

そろそろ旅行に戻ろう！！

中央ブータンには、“トンサ”と“ジャカール”の町が中心になっており、仏教施設が集中している。そのひとつの”ジャカールゾン“(白鳥の城とも呼ばれている)を訪問して、中央広場で行っていた翌日のお祭りのための踊りの練習風景を観ることができた(写真①②③)。お祭り当日は仮面をつけての踊りとのことだが、練習でも迫力ある踊りであった。踊りも何種類もあるとのこと、ほとんどは歴史上の出来事を伝える内容とのことである。その後西部地区に戻り、川の合流点に建つ”プナカ・ゾン“見学(写真④)。入場は川にかかった屋根付きの橋をわたる。

(写真⑤) この写真のように屋根のあるブータン建築様式の橋が散見された。ブータンの首都“ティンブーに行き国王の政庁”タシチョン・ゾン“に入場(すべてのゾンは建物内部には入場できない)し、広大な庭から建物を見学、すべて伝統様式の木造建築であるが芸術的な美しさがあった(写真⑥⑦)。その後断崖絶壁にへばり付くように建つ“タクツアン僧院は、日程の都合で見学には組み込まれていないのでちょっと離れたところから写真を撮る(写真⑧)。空港のあるパロ市に戻る途中の峠でヒマラヤ山脈の一つ”ジョモハリ山7300m)がみえた。空港のあるパロにてブータン最後の夜を過ごす。

翌日パロ～バングラデッシュ～バンコク～成田空港に帰国。(4ページへ続く)



ブータン王国雑感 #気が付いたこと

1. 発展途上国としては、町中、道路にごみがほとんどなく清潔であった。自然や地域環境をきれいに保つという教育が行き届いているようだ。高校の生徒が昼休みに学校周辺の掃除をしていた(写真⑨)。各所に花が植えられていた。(写真⑩)

⑨



⑩



2. 貧富の差が小さいように感じた。農家の庭に自家用車があり、農作業に小型重機が使用されているところもあった(写真⑪)。

⑪



⑫

3. 娯楽施設はほとんど無い様だが、国技というか趣味なのか、アーチェリーが盛んであり、富裕層は週末に二組に分かれて競技が行われている(写真⑬)、アーチェリーの用具は高価なので庶民は重りが付いた大型のダーツのようなものを20mくらい先の目標(直径10cmくらいの棒)を目掛けて投げる(写真⑬)あたると敵味方皆でお祝いの踊りを踊る。これが直接当たると大げかないし死亡するほどの威力がありそうだった。



⑬

4. ブータン王国を訪問したのは、10年以上前の事でありインターネットや外国人の訪問により、海外の情報が入ってきている状況であり、現在どういう状況なのか不明であるが、自国内に有力な産業が生まれていない状況だと、若年層の仕事が不足しているのではないかと心配される。特に大学卒の人の仕事は公務員以外にあるのだろうか。(吉田章 記)

= 桐生倶楽部だより =

【6月】

- ・歩く会例会「赤城の荒山・鍋割山登山」 (6日)
- ・正副理事長・営繕正副理事長会議 (8日)
- ・歩く会世話人会 (10日)
- ・理事会 (中止)

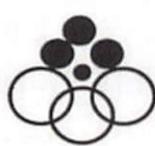
【7月】

- ・理事会 (12日)
- ・歩く会例会「草津白根・チャツボミゴケ公園」 (25日)
- ・月次会「宇宙飛行士の活動を支える宇宙日本食」 (26日)
- ・歩く会世話人会 (29日)
- ・会報委員会 (29日)

【退会社員】

- 月門快憲(ご逝去)
- 肥塚 勤(ご逝去)
- 前原勝良

一般社団法人 桐生倶楽部 第244号  
 2021年 (令和3年) 8月発行  
 発行人 坪井 良廣  
 編集責任者 桑原 志郎  
 版下製作者 桑原 志郎



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp

7月 月次会

「宇宙飛行士の活動を支える

日本宇宙食」

—日本の味が宇宙空間を支える—



講師: JAXA 有人宇宙技術部門

宇宙飛行士健康管理グループ

主事 須永 彩さん

桐生倶楽部7月月次会をコロナ感染防止対策として、人数制限などを行い開催いたしました。今回は、地元出身で、現在 JAXA に勤務されている須永彩さんをお招きして、主に宇宙日本食について映像を交えて、お話を聴きました。

宇宙食とは、宇宙滞在を行う宇宙飛行士が安心・安全に食べられるように開発・製造された食品です。現在の国際宇宙ステーションでの宇宙食の条件としては、宇宙飛行士の健康維持に必要な栄養が確保されていること。常温で、少なくとも1年半の賞味期限を有すること。宇宙は地上と違い微小重力環境なので、液体や粉末が飛び散らないこと。そして絶対に食中毒にならない、高度な食品安全管理下で製造されていることなどが挙げられるそうです。昨今の宇宙食は、NASA やロシアが提供しているものだけではなく、各国の宇宙飛行士に合わせた、その国ならではの宇宙食の開発が進められています。日本では、大手の企業や県立の高校生が開発した宇宙食を「宇宙日本食」



として JAXA が認証していて、その数 47 品目あるとのこと。宇宙日本食として認証されるには、JAXA が設定している「宇宙日本食認証基準」という厳しい基準を乗り越えなければならず、宇宙日本食認証取得まで2年以上は掛かるそう。

また、宇宙飛行士は地上から送られる新鮮な果物や野菜も食べる機会があるようで、過去には群馬県のキウイフルーツが届けられ、海外の宇宙飛行士にとっても評判がよかったとのこと。日本の様々な食品が宇宙飛行士の約半年にわたる長期滞在の活動を支えているようです。最後に「JAXA は宇宙開発・宇宙利用が大きなミッションですが、その中で生まれた技術を地球上の社会問題の解決につながることを望んでいます。宇宙食もその特長を活かし、防災食や高齢者の方のための介護食への利用も期待され、今後も可能性を広げていきたいです」と話されていました。

7月月次会では、宇宙食おにぎりも配布され、宇宙をより身近に感じるお話をお聞きする事が出来ました。 (須永博之 記)



## 7月歩く会例会

草津白根の芳ヶ平湿原～  
チャツボミゴケ公園？

年間計画では7月は長野県の車山高原に登る予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止対策で県境をまたぐ移動の自粛要請もあり、今回は草津白根の芳ヶ平湿原～チャツボミゴケ公園を歩く計画に変更しました。ここは上信越国立公園にあり、2015年ラムサール条約湿地に登録された国際的に重要な生態系が存在している場所です。25日朝6時参加者15名はバスで桐生倶楽部を出発。坪井理事長にも参加していただきました。草津を過ぎてしばらくすると、進行方向右側に白茶けた山肌が特徴の湯釜見えてきます。今日はこの白根山の北側の沢を歩く予定です。2,172mの国道最高地点を通り、9時過ぎに、渋峠に到着。標高2,152mのここから、チャツボミゴケ公園(1,250m)迄約9キロを下る計画です。天気は時々薄日が差し、涼しい風が吹く真夏の山行にはとても良いコンディションです。全員で記念写真を撮り、柔軟体操をして出発。



最初に芳ヶ平湿原(1,832m)迄下ります。歩き出すと、悪いことに前日まで夕立が続いた為、登山道は水路のような状態で非常に歩きにくく、また段差の大きいところもあり、木道もとても滑りや

すく、悪戦苦闘の連続です。予定より1時間遅れの11時50分芳ヶ平湿原に到着。



悪路の上に外出自粛の為の運動不足もあり、皆大分疲れた様子。世話人で相談して、残念ですがチャツボミゴケ公園を訪れるのは次の機会にし、一番早く着くコースに変更。このルートは今までと異なり、木道も整備された歩きやすい道でした。4時過ぎ最終グループも国際草津スキー場の駐車場に到着。今回は悪条件が重なった事もあり、タフな山行になってしまいましたが、7時桐生倶楽部に全員無事到着。大変お疲れ様でした。

(栗原信治 記)

## 第2回桐生倶楽部

## アーカイブス

今回は桐生倶楽部会報第34号(昭和56年12月25日発行)に掲載された当時副理事長で営繕委員長、平野元吉さんによる60周年記念工事、会館大修繕の報告をお届けします。平野元吉さんはこの後、昭和62年から平成3年にわたり第9代理事長をつとめられました。

桐生倶楽部が創建100年を超えて今もなお利用できるのは、社員のみなさんのご協力のもと、長年にわたって修繕・管理を行ってきた先人の方々の努力の賜物です。桐生倶楽部会館の修復履歴の中で

も、この60周年記念工事の貢献は大きいものであったのではないのでしょうか。

(文化財研究委員会 村田勝俊 記)

### 一 桐生倶楽部60周年記念工事

#### 完成にあたって一



副理事長  
営繕委員長 平野元吉

桐生倶楽部の創設は大正7年に始まり、大正8年12月に会館は完成された。爾来60余年幾多の風雨に耐え、又幾多の栄枯盛衰を経て今日に至っている。自分が倶楽部に入会したのは昭29年9月で理事就任以来14期となり、5代の理事長に任えて来た。

当時の理事長は、境野武夫氏で有ったが倶楽部は荒廃し、一時は身売りして閉鎖する事も真剣に考えられた。従って理事長は其の対策に非常に苦慮された。

其の後役員改選によって長澤義雄氏が理事長に就任された。長澤氏は就任と同時に衰微した倶楽部を再建す可く素晴らしい辣腕を振るわれた。当時の倶楽部は多額の借財を抱え殆んど未払いで有った為紙一枚も現金以外は買えなかったのである。理事長は先ず衰退した原因を探究す可く私に会計を命じ収支の状況を調査すると同時に、会費の値上げを断行し特殊寄付を募り会員の増強人事の刷新等も断行し日勤に等しい精勤振りで改革に当たった。そして収入を計ると同時に倶楽部内外の整備改装、什器、備品の購入絨氈の取替え等驚く程の英断を以って次々と実行された。特に倶楽部の庭園は長澤氏と小山造園師の努力に依って完成

されたものである。

扱て今回倶楽部も60周年を迎えるに当たり理事会の決議に依って長く先輩の偉業を後世に伝える為徹底した会館内外の改修工事を行い併せて大駐車場の建設に着手する事に決定した。私は営繕委員長を命じられたので工事一切を桐生建設に依頼し大事業に着手した。一番困った事は会館の破損の程度が不明であると同時に所要資金が出せない事である。止むを得ず会館外部の壁を全部剥がし内部の状況を調査した。其の結果土台の大部分は補修を要し、1号室の床下は腐り甚だしく土台を始め全部新しくした。其の外屋根の補修、雨樋の取り換え等一切を含めて880万円を要した。次は大駐車場の建設で有る。桐葉軒立退きには長時間を要し可成り難行した。当時、此の交渉に当たられた島勝二氏は大変に苦勞された...

<中略> 御蔭を以って倶楽部は貸地135坪を回収拡大し大駐車場を完成し60台位の駐車は可能と推測されますので会員諸氏には今後大いに御活躍有らん事を心から願って止みません。

以上誠に雑ばくな報告で御わかり難く御不審の点多々有ろうと存じますが、紙面に限り有る為出来ませんが、一切の書類は整って居りますので御高覧の程御願ひ致します。誠に有難う御座いました。



修繕のため、外壁を剥がし、新たに貼った板上に下地を塗ったところ、レンガタイルの場所が区切られている

修繕が完了 レンガタイルも元の位置に



## 「百年名家」プレゼンター

## 内田先生が来桐

皆さんの中には「百年名家」というテレビ番組を見ている方がおられることでしょう。BS朝日・毎週日曜・昼12時から、日本に残る建造から百年近く経った歴史的名建築を紹介する番組です。建築史研究者の先生方がプレゼンターを務めています。桐生の近くに在るものとしては、大正13年(1924)東京渋谷に建てられ



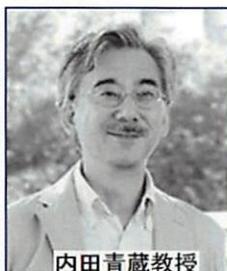
旧土岐家住宅洋館

た土岐家住宅が沼田市上之町に移築され「旧土岐家住宅洋館(国登録有形文化財)」として公開されている様子を

テレビで紹介しています。

9月13日(月)、プレゼンターのお一人・内田青蔵教授(神奈川大学工学部建築学科)が調査下見の為、桐生倶楽部会館をお訪ねになりました。

内田先生は新桐生12:27着りょうもう号にて来桐、坪井理事長と共に迎えしました。日本基督教団桐生教会(錦町1丁



内田青蔵教授

目)、桐生市近代化遺産絹襷記念館(巴町)、JR桐生駅をご覧になった後、異国調菜・芭蕉(糸屋通り)で棟方志功の壁画を見ながらの昼食を摂って頂きました。

食後は金善ビル(本町5丁目)を経て、桐生倶楽部会館へ。会館建物は現在雨漏り修理中で、詳細な見学は出来ませんが、倶楽部成立の歴史、会館建物の設計者・清水巖のこと、恐らく日本で最古のスパニッシュ様式の建築であることなどを識って頂きました。

内田先生は彫刻家・掛井五郎(1930-)にも興味をお持ちになり、掛井氏がアトリエにしていた旧織物工場(東久方町2丁目)に立ち寄りましたが、今は「金田丸岡平」という5人の美術家がアトリエになっており、掛井さんの痕跡は有りませんでした。

先生は新桐生16:06発りょうもう号で帰京されました。短い旅でしたが、桐生の町の歴史、桐生倶楽部会館の歴史のアウトラインを識って下さったのではないかと考えています。

内田先生の調査研究の結果により、桐生倶楽部会館がテレビ番組「百年名家」で紹介されることを願っています。

(村田豊樹 記)



## =桐生倶楽部だより=

## 【8月】

- ・文化財研究委員会 (2日)
- ・理事会 (中止)
- ・正副理事長会議 (24日)

## 【9月】

- ・歩く会例会 (中止)
- ・理事会 (中止)
- ・自衛防災訓練 (16日)
- ・歩く会世話人会 (16日)
- ・会報委員会 (24日)

一般社団法人 桐生倶楽部 第245号  
2021年 (令和3年) 10月発行  
発行人 坪井 良廣  
編集責任者 桑原 志郎  
版下製作者 桑原 志郎

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
 TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp

## 11 月月次会

### アルパ演奏会 音楽鑑賞部会共催行事



11 月月次会は、音楽鑑賞部会との共催でアルパ演奏会を開催しました。

演奏者の岩下佐知子先生は、FM ラジオで南米の楽器アルパに魅了され、日本を代表するアルパ演奏者に師事し、本場パラグアイの曲から日本の名曲まで幅広く演奏し、数多くのコンサートやイベントで活動するとともに、桐生と前橋でアルパ教室を主宰している方です。

月次会では、

- ① 川の流れるように
- ② セシリア
- ③ コーヒールンバ
- ④ コスモス
- ⑤ ひこうき雲
- ⑥ オーバー・ザ・レインボウ



⑦ コンドルは飛んでいく  
 の名曲を美しい音色で演奏され、また、明るい笑顔とソフトな語り口で解説して頂き、心地よい時間はあっという間に過ぎ、アンコールとして往年の名曲 Let it be (ビートルズ) で締めました。

ご参加頂いた、27名の社員の皆さんも、大変感動され、その気持ちを代表して坪井理事長より、心のこもったご挨拶を頂き、心温まる11 月月次会は閉会となりました。

(前原勝 記)

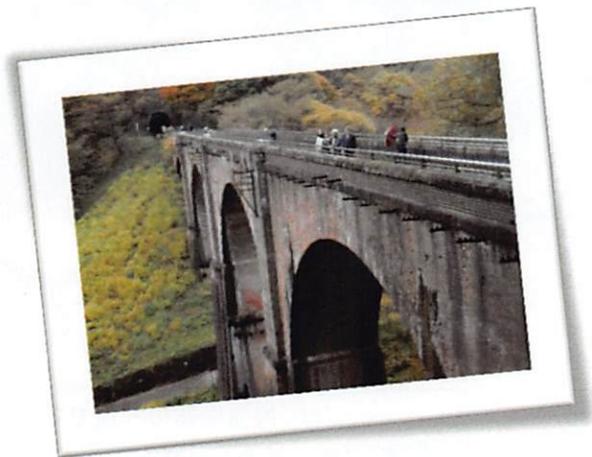


アルパ(arpa または harpa)は、撥弦楽器の一種でスペイン語でハープの意味である。日本では特にラテンアメリカのフォルクローレで用いられる民族的な楽器を指す。パラグアイ・ペルー・メキシコ・ベネズエラなどで演奏されており、特に盛んなのはパラグアイである。別名、ラテンハープ、インディアンハープ、パラグアイハープとも呼ばれる。スペイン語ではアルパ奏者のことをアルピスタ(arpista)と呼ぶ。日本では女性奏者が多いが、パラグアイでは男性奏者が多い。

ぶらりまち歩き 10月例会  
中山道「坂本宿」を  
ぶらりと歩く

10月31日(日)、暫くぶりのぶらりまち歩きです、参加申し込み者は7名でしたが当日に2名のキャンセルがあつて5名で実施しました。コースは碓氷峠～めがね橋、坂本宿、碓氷関所跡、そしてJR横川駅前釜めしおぎのや本店の順に巡りました。

am. 8:00 桐生倶楽部出発して一路碓氷峠へ、峠には南向きに熊野神社があり群馬・長野の県境の上に建てられている。参拝をしてめがね橋に向けて出発、軽井沢から国道旧18号、カーブ184(標識有)を下り、めがね橋見学、下か見るその大きさが凄い、又近くに登り口から上に登り線路敷跡からの眺めも壮観、周辺木々の紅葉はもう少し先なのがチョット残念。(めがね橋には見学者用駐車場及びトイレあり、4~5分ほどの距離)



次は坂本宿、江戸幕府の参勤交代の実施に伴い、碓氷峠の入り口に宿場が必要になったことから計画的につくられ道幅は広く町並みは整然と整備され旅籠が多いのが特徴。

「町並の長さ 6町19間、人口 732人、総家数 162軒、本陣 2軒、脇本陣 2軒、旅籠数 40軒」(群馬県資料より)碓氷峠よりの坂上から町並みを下るように歩くと家々には昔の屋号を掲げて往時をしのばせている、又、宿場を振り返るとこんな広い道の宿場をよく整備したものと驚く一方、眼前に迫る碓氷の山々に旅人は峠越えの困難を感じながらここで宿をとったのと思う。

関所跡では資料館ボランティア説明員の方からいろいろな事を聞くことが出来ました、特に女性については手形に体の特徴等が細かく書き込まれ関所通過の大変さが窺えた。

昼食は横川駅前のおぎのや本店で名物の釜めしを店内で美味しく頂き、pm4:30桐生倶楽部に帰着。県内にはまだまだ歩きたい街道がいっぱいあります。

(新井晴夫 記)



## 10月歩く会例会 尾瀬ヶ原・草紅葉の草原歩き

・・・思い出すはらかな尾瀬遠い空  
とうたわれ、誰もが  
憧れと親しみを持ち、  
感じている尾瀬ヶ原を  
10月3日、歩いてき  
ました。

コースは鳩待峠から  
山の鼻に下り、尾瀬ヶ  
原の散策をして同じコ  
ースを戻る旅行会社も  
企画する歩道（木道）等がしっかり整備  
された一般的なコースです。

参加者 16 人は観光バスで鳩待峠に予定  
通り am9:00 着、それぞれ支度を整え、  
全員で記念の一枚の後 am9:20 出発、シ  
ャッターを押してくれた現地の関係者が  
「今日は今年一番の天気だよ」の声。  
そうです今回、一番心配だったのが天気  
で大型の台風 16 号が本州沿岸を北上し  
日曜日頃に関東接近の予報、しかし東に  
大きくそれて又、速度も早まって、台風  
一過のおかげだったのです。



概ね 1 時間歩いて山の鼻に着、ここか  
ら自由行動として帰りは山の鼻発を  
pm1:00 で鳩待峠着 pm2:30 をお願い。  
ここからが尾瀬ヶ原です、草原の草の

紅葉（そろそろ終わり）と周辺の山々  
（紅葉はまだ早い）、燧ヶ岳を正面に眺め  
ながら木道を歩いて牛首分岐（東電小屋  
及び竜宮小屋方面への分岐）で休憩昼食。

雲一つない大きな青空、帰路は至仏山  
を正面に眺めながらの山の鼻に戻り、  
pm1:00 に出発して pm2:30 鳩待峠着。



尾瀬保護財団が交通手段・経路・経費・  
宿泊地等アンケートを受け取り帰路に向  
かう。帰路では参加者の沼田りんご購入  
要望で休憩所を赤城高原SAから沼田の  
道の駅「白沢」で休憩とりんごの購入等  
をして、概ね予定通りの pm6:00 桐生倶  
楽部帰着、皆様のご協力で素晴らしい  
天気尾瀬を満喫ありがとうございました。

（新井晴夫 記）



### 秋のゴルフコンペ

緊急事態宣言も解け、二年ぶりのゴルフコンペを10月23日(土)に桐生カントリークラブで18名(5組)の方々に参加いただき無事に開催する事ができました。写真ではいい天気ですが、当日は寒く、霧雨や風花がまじる生憎の天候となりました。終了後、ティーパーティをゴルフ場で行い簡単な表彰式を行いました。結果は下記のとおりです。

- 優勝 野沢八千万
- 準優勝 朝倉富美夫
- 3位 石関 厚

次回春のゴルフコンペは、令和4年4月16日(土)桐生カントリークラブを予定しています。近くなったらご案内いたします。大勢の方の参加をお待ちしております。

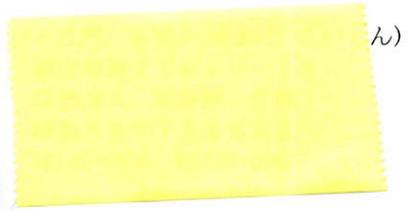
(森田良徳 記)



### ようこそ倶楽部へ

#### =新入社員紹介=

(敬称略)



ん)



T長

#### =桐生倶楽部だより=

##### 【10月】

- ・正副理事長・営繕正副委員長会議 (2日)
- ・歩く会例会「尾瀬ヶ原・草紅葉の湿原を歩く」 (3日)
- ・歩く会世話人会 (7日)
- ・理事会 (11日)
- ・秋のゴルフコンペ「桐生カントリークラブ」 (23日)
- ・ぶらりまち歩き部会  
「中山道・碓氷関所跡と坂本宿、眼鏡橋」 (31日)

##### 【11月】

- ・理事会 (8日)
- ・月次会「アルパ演奏会」 (12日)
- ・歩く会例会「錦秋の榛名 相馬山登山」 (21日)
- ・歩く会世話人会 (25日)

#### 桐生倶楽部クリスマス祭

##### 中止のお知らせ

本年度も昨年同様、クリスマス祭の中止が理事会で決まりました。残念ですがご報告申し上げます



一般社団法人 桐生倶楽部 第246号  
 2021年 (令和3年) 12月発行  
 発行人 坪井 良廣  
 編集責任者 桑原 志郎  
 版下製作者 桑原 志郎

## 桐生倶楽部・歩く会 2022年 計画表

	行き先	テーマ・見所	交通	担当
1月9日 第2日曜	吾妻山	正月恒例山行	吾妻公園 駐車場集合	吉田 腰塚
2月13日 第2日曜	大小山と栗田美術館	ハイキングと伊万里、鍋島の 陶磁美術館	JR	吉田 栗原
3月13日 第2日曜	仙人岳	足利市で一番高い山	自家用車分乗	腰塚 岸田
4月10日 第2日曜	日光 滝巡り	霧降の滝、裏見の滝と日光社 寺	マイクロバス	吉田 新井
5月8日 第2日曜	善光寺と小布施	善光寺御開帳	小型バス	山口 吉田 新井
6月5日 第1日曜	草津 チャツボミゴケ 公園と大平湿原	チャツボミゴケと草津温泉	マイクロバス	岸田 新井
7月24日 第4日曜	尾瀬沼	尾瀬沼の高山植物	マイクロバス	栗原 岸田
9月11日 第2日曜	黒斑山	浅間山の展望台	マイクロバス	栗原 岸田
10月9日 第2日曜	戸隠ハイキング	霊峰戸隠山の麓ハイキング	マイクロバス	腰塚 山口
11月13日 第2日曜	鳴神山	地元川内の山、紅葉と眺望	市営バス	栗原 新井
12月11日 第2日曜	東京方面	オリンピック施設訪問	小型バス	腰塚 山口 新井

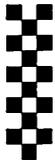
1. 月毎の詳細スケジュールは各月の案内にてお知らせします。ご参加お待ちしております。

2. 「歩く会」世話人は下記の6名です。

担当理事：岸田信克

世話人代表 栗原信治、会計 吉田章

世話人：腰塚富夫、新井晴夫、山口一郎



良樹 様

2021年12月16日

(社) 桐生倶楽部 社員各位

一般社団法人 桐生倶楽部  
理事長 坪井 良廣

## 新年互礼会中止のお知らせ

拝啓 師走の候、社員の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、未だに新型コロナウイルスの感染が世界中で拡大し、予断を許さない状況が続いています。社員の皆様の健康・安全を第一に考慮した結果、新年互礼会を中止する事が理事会で決定されました。

先ずは書面をもって社員の皆様にお知らせいたします。

なお、現在6号室と資料室の修理をしています。桐生倶楽部入館の折には十分ご注意くださいようお願いいたします。

敬具

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町 2 丁目 9 番 36 号 一般社団法人 桐生倶楽部

TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp



## 新年のご挨拶

桐生倶楽部 理事長 坪井良廣

旧正月、令和四年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また日頃より、桐生倶楽部の皆様には、倶楽部会館維持、運営にご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。



新型コロナウイルスの感染が地球規模で拡大する中で、新しい年を迎えることになりました。世界中で、多くの人々が生存の危機と生活の困難に直面している現状で、今年も、昨年に引き続いて、変異ウイルスオミクロン株 対策に追われる一年になろうかと思いますが、皆さまには、ご自分自身とご家族を守り、また周囲の大切な方々を守りながら、健やかな日々を過ごして頂きたいです。

苦難、忍耐そして強調が求められる中からでも、今年こそは輝きを増したすばらしい年でありますよう、祈念申し上げます。



—雑学—

坪井良廣

壬寅（みずのえとら）はどんな意味を持つ干支  
令和になって四年目に入り、干支は壬寅（みずのえとら）になります。虎は俊敏なので、牛が前日に出発していなければ、おそらく一番早く神様のところに到着したはずですが、ですから、さぞかし悔しがっているだろうと思っていたところ、悔しがったりネズミを恨んだりしているという話は聞きません。十二支に入りさえすれば、順番は二の次ということでしょうか。その

寅の基礎知識として、まず東北東の方角を指していることがあげられます。「丑寅」は北東の方角ですが、陰陽道では悪霊の来る「鬼門」になります。また旧暦の時刻でいうと、午前三時から五時までの二時間に当たります。なお午前三時は日付変更時点でもあるので、三時を過ぎると翌日に日付が変わります。一日の最初の時刻が寅だったのです。ところで、今年はその「寅年」ではありません。ちょうど「五黄の寅」になっています。御存じでしたか。これは九星と称する中国の民間信仰と十二支を組み合わせたもので、最小公倍数が三十六になります。つまり三十六年に一度、言い換えれば寅年の三回に一回が「五黄の寅」になります。来年生まれる人、来年三十六歳になる人、さらに七十二歳になる人が「五黄の寅」です。最近では長生きなので、一〇八歳の人もいるかと思えます。そもそも「五黄」とは、星は土星・方角は中央ということで、運気が高いとされています。ですから「五黄の寅」に生まれた人は、強運と強いパワーの持ち主なのです。特に女性は、社会で活躍する人が多いとされています。では虎にまつわることわざはいかがでしょう。すぐに思い浮かぶのは「虎穴に入らずんば虎児を得ず」「虎の威を借る狐」「苛政は虎よりも猛なり」「虎視眈々」「前門の虎、後門の狼」「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」「千里の野に虎を放つ」「張り子の虎」「虎の巻」「竹に虎」「虎に翼」などです。しかしながら島国の日本に虎は生息していないので、これは中国のことわざが元になっているようです。

## 歩く会 11月例会

### — 錦秋の榛名 相馬山登山 —

11 月例会は榛名外輪の東にひときわ目立つ鋭峰、1,411m の相馬山に登りました。今回は桐生ボラ協の 10 人乗りワゴン車を用意しましたが参加者が少なく 4 名の参加者にとどまりました(残念)。

しかし少人数は少人数の良さがあると皆(4人)で話し薄雲の中 7:00 に桐生倶楽部を出発しました。途中休憩もとらず榛名湖に向かう県道 1,170m のヤセオネ峠に

は 8:30 に着きました。道路左の赤鳥居の登山口から熊笹の平らな遊歩道を 15 分歩くと相馬山道下の大鳥居へ。



ここから石積の急登。そこで 3 名の白装束の修験者がいました。ここは黒髪山神社の信仰の山でその信者の人が年一度の祭りを行っておりました。その祭りに合えた幸運感を感じつつ登って行きました。岩場の鉄ハシゴ 3 ヶ所を経て、一気に黒髪山神社のある山頂に 9:30 到着。プレハブ社、石碑、石像が並ぶ信仰の山でした。登り始めは曇っていて寒さを感じていましたが、頂上に着くと太陽が顔を出し暖かく感じられる様になり伊香保面の素晴らしい展望を見る事が出来ました。少し休憩し 9:45 頂上を出発。登山口には 10:35 着。10:40 には出発し途中伊香保の湯に入る予定でしたが少人数でしたのでこのまま桐生に向かおうとすぐに意見がまとまり風呂には入らず、バスで昼食を取り 12:30 には桐生倶楽部に着いてしまいました。当初の計画よりも相当早く着いて、忘年会の開催の確認。歩く会世話人会の打合わせの日時を決め散会し家路に着きました。

短い時間の山行でしたが頂上直下が思ったより急登でしたので充実した山行いになりました。(腰塚富夫 記)

## 歩く会 12 月例会 — 甲斐路の旅 —

### 「根津記念館・山梨県立美術館(ミレー)とワイナリー」

令和 3 年は実行することが出来ました。昨年は東京方面での実施をコロナ感染を考慮して山梨方面の計画にしましたが結果的には警戒度を考慮してやむなく中止としました。12 月 12 日(日)参加者 16 人 予定通り午前 6 時 30 分出発バスは大分藪塚から北関道から関越道、高坂 S A で小休止、圏央道から中央道、談合坂 S A で小休止して一宮御坂 I G において根津記念館着(9:30) \* 根津記念館・初代根津嘉一郎の実家「根津家邸宅」で国登録有形文化財案内説明員からの説明ののち自由見学、庭園は富士山を借景し、大磯の別荘から移植の黒松と池。**— 成功は誠意と努力に在り。社会から得た利益は社会に還元する義務がある —**(展示館)

次の見学地は甲斐善光寺(10:30)

\* 甲斐善光寺・武田信玄創建、撞木造りの本堂は東西約 38m、南北約 23m、高さ 26m の東日本最大級の木造建築物。本堂及び山門は国の重要文化財、その他多くは山梨県及び甲府市文化財。川中島の合戦の折、信濃善光寺の焼失を恐れ如来像を奉遷。武田氏滅亡により織田・徳川・豊臣を転々して信濃に帰座。(甲斐善光寺 Hp)

次は楽しみの昼食です、土日は団体の予約が不可なので個人個人の



自由昼食として店舗の多い甲府駅南口に向かいランチタイム(11:20~12:30)。ほうとう専門店「ほうとう小作」に全員入店して、人気NO1メニュー「かぼちやほうとう¥1,200円」をオーダー。みそ仕立ての汁にほうとうと大きく切ったカボチャなどの具材、美味しい。店の外に出て見れば入店待ちの行列、早く入店して大正解。甲府駅前周辺バスや乗用車、人の流れは近くに県庁や市役所が(今日は休日)あるからなのか人口約19万人の街とは思えない賑わいはさすが観光地今日の一番の目標のミレーの山梨県立美術館です、65歳以上は居住地に関係なく無料、これも素晴らしい。「種を蒔く人」、「落穂ひろい」など堪能。この美術館ではミレー作品は油彩画12点、他にパステル・版画・素描等合計70点所蔵、人口約80万人の山梨では大きな財産です。また館内2階には大きな一枚ガラスの富士見窓と称して、富士山の眺めがとっても良く、ここまでは無料入館ができる。ここから帰路に向かい、ワイナリーでは試飲をして味を確かめてワインを購入、ドライバーの配慮で予定外で山梨土産の定番「信玄餅」の桔梗屋に寄って製造工程の見学とお土産の購入ののち桐生に概ね予定通り19:00帰着。ありがとうございます。

令和4年は東京オリンピック施設の見学をしたいと今から思っています。是非ご参加ください。(新井晴夫 記)

ぶらりまち歩き部会12月例会  
—ぶらりと神社(諏訪機/美和・  
雷電・常木稲荷)めぐり—



12月5日(日)本町周辺に存在する諏訪機・美和・雷電・常木稲荷を直線で結ぶ変形四方形を基本に桐生倶楽部から諏訪機へ、諏訪機から美和、美和から雷電、雷電から常木稲荷、常木稲荷から桐生倶楽部へと次の神社を目的地に「曲がり真っ直ぐ」、「ジグザグ」にぶらぶらと路地や細い道を中心にして歩いてきました。

出発は桐生倶楽部を午前8時半、参加者7人はぶらぶらと諏訪機神社を目的地に向けて歩き出す。開運寿司そば十字路を南に向かって右折して袖の眼下脇から裏道へ入る。道路を渡るとそこに薬師如来石像(目薬師)が祀られて、お参りもされている様子もあるが地図には記載がないことから個人的に設置されたと思いますがぶらぶらの成果?道路に戻り東に向かって中通りを横断してKSランチボックス脇からつれづれ苑方面に向かいつれづれ苑から路地を歩いてタイムスの通りに出て森秀織物からひかりこども園、織物参考館前からキリスト教会を巡るように歩いて後藤織物から諏訪機神社。

\*諏訪機神社とは機祭神と諏訪社の合祀(いろいろと変遷がある)次の目的地美和神社に向けて歩く、後藤織物裏から9階建て市営住宅と東ディサービス(この辺りは厚生病院の跡でディサービスのところは諏訪保育園であった。)ここから中通りを横断して路地を歩いてあずま会館脇に出て栗原医院前を幸橋通りに出て東町児童公園・東町集会所前を通り近江辻子から有鄰館で小休止し、本町通りを横断して美和様辻子から山手通りを横断して美和神社。次の雷電神社に向

かって西側に下りて路地から吾妻公園通

りを横断して村松沢通りから西公民館別館（旧西中）前から白樺舞踏学園前から児童公園（元保健所跡）から桐生大学付属中（元とりせん、その以前は村田製作所）脇から西桐生駅通りを横断して路地を通してドンキホーテ西側通りから末広町通りを横断してカニ川通りからJR桐生駅を通り抜けて南口広場からコロンバス通りを渡って図書館・新川公園から市役所前通り横断して雷電会館裏から雷電神社（11:00）。ここから本町通りを上ってモリムラ珈琲店で休憩。かんのん堂前を右折して常木稲荷神社。仲町通りを歩いて救世軍前ではいつかここも見学したいと思いつつ桐生倶楽部に到着 12 時を少し過ぎていました。歩けば1時間ほどの行程もあのところで曲り、ここでも曲り、まっすぐにいかないといい。ぶらぶらとあるく中で今回は桐生市長であった3人の方の自宅前を通ったり、

ファッションタウン桐生・わがまち風景賞・受賞スポット、又、ここは以前〇〇だったとか、と思い出したり一人では歩きづらいような路地もぶらぶら歩けば話題は尽きないまち歩き、参加していただいた皆さんありがとうございました。

（新井晴夫 記）



と題して大川美術館および糖業協会所蔵の作品が次の展示室に分かれて昭和期に活躍した画家の作品が陳列され、ゆっくり鑑賞することができました。テーマと主な作家は次の通りです。

1. 自然を眺める—海と山 藤島武二、高島国四郎、中川一政ほか
2. 自然を眺める—くつろぎの庭 梅原龍三郎、山口薫、須田國太郎ほか
3. テーブルの上の物語—花の彩り 林武、児島善三郎ほか
4. テーブルの上の物語—静物のささやき 熊谷守一、和田英作、鬚光ほか
5. 松本竣介—モダンガール 安井曾太郎、東郷青児、小磯良平、猪熊弦一郎ほか
6. 人の形—肖像画から人物像へ 麻生三郎、鶴岡正男、浜田智明ほか
7. まだ見ていない「形」—幻想と抽象 難波田誘起、野見山暁治ほか

全体を見下ろして色彩の豊かな親しみの持てる作品が多かった。同時に昭和も遠くなりけりとの印象も持った。桐生出身の画家の作品も展示され、親しみと誇りを覚えた。喫茶室で感想を語り合っ帰途についた。

（山口一郎記）



旭日小 小経章 山口正夫氏

＝桐生倶楽部だより＝

- [12月]**
- ・会報委員会 (2日)
  - ・ぶらりまち歩き部会「神社めぐり」 (5日)
  - ・美術部会「大川美術館」(11日)
  - ・歩く会例会「甲斐路の旅」(12日)
  - ・理事会 (13日)
  - ・文化財研究委員会 (14日)
  - ・写真部会 (16日)
  - ・歩く会世話人会 (16日)

- [1月]**
- ・歩く会「吾妻山ハイキング」 (9日)
  - ・理事会 (11日)
  - ・歩く会世話人会 (13日)
  - ・正副・会計・営繕合同会議 (19日)
  - ・会報委員会 (25日)

**桐生倶楽部美術部  
令和3年(2022)の鑑賞会報告**

桐生市街の遠出にまだ不安があるため近場の企画として、大川美術館を再度取り上げました。2021年12月11日(土)に7名の参加がありました。昭和モダン

一般社団法人 桐生倶楽部 第247号  
2022年(令和4年) 2月発行  
発行人 坪井 良廣  
編集責任者 桑原 志郎  
版下製作者 桑原 志郎

# 令和4年度 定時社員総会

日時：令和4年2月24日

一般社団法人 桐生倶楽部

# 次 第

1. 開会のことば

1. 総会成立報告

1. 理事長あいさつ

1. 議長選任

1. 議事録署名人選出

1. 議 事

第1号議案	令和3年度	事業報告
第2号議案	令和3年度	決算報告 監査報告
	令和3年度	公益目的支出計画実施報告 監査報告
第3号議案	令和4年度	事業計画案
第4号議案	令和4年度	収支予算案
第5号議案	令和5年度	収支暫定予算案
第6号議案	その他	

1. 閉会のことば

# 令和3年度 事業報告

自 令和3年1月1日  
至 令和3年12月31日

一般社団法人 桐生倶楽部

社員総数	220名（名誉社員0名、正社員220名） 内訳（法人12社、個人208名）
入社	8名（内法人0）
退社	17名（内法人2）
行事・集会	18回 新年互礼会中止、文化祭中止（絵画・写真展中止、ゴルフ大会中止、麻雀大会中止、囲碁大会中止） ガーデンパーティー中止、クリスマス祭中止、総会1回、理事会8回、正副理事長会議1回、正副理事長・営繕正副委員長会議2回、役員特別懇談会中止、監査会1回、消防訓練2回、月次会3回、  委員会9回 （文化活動委員会、行事・交流委員会、営繕委員会1回（打合せ多数回）、会報委員会6回、総務委員会、社員増強委員会、懇話会、長期修繕計画委員会、文化財研究委員会2回）  部会27回 （歩く会10回、歩く会世話人会11回、ゴルフ部会1回、写真部会2回、美術部会1回、麻雀部会、囲碁部会毎週土曜日碁会、ぶらりまち歩き部会2回、音楽鑑賞部会、旅行部会、歴史探訪部会）
その他	会報6回発行

令和3年度

室別使用状況

月	広 間	1 号	2 号	4 号	5 号	6 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	全 館	テ ラ ス	合 計
1 回数(回)	13	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	22
月 人数(名)	170	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	210
2 回数(回)	11	2	1	0	0	8	0	0	0	0	0	22
月 人数(名)	158	16	5	0	0	32	0	0	0	0	0	211
3 回数(回)	6	5	1	0	0	5	0	0	0	1	0	18
月 人数(名)	72	53	9	0	0	20	0	0	0	30	0	184
4 回数(回)	8	7	3	0	0	6	0	1	1	0	1	27
月 人数(名)	157	76	17	0	0	21	0	40	5	0	5	321
5 回数(回)	11	3	2	0	0	7	0	0	0	0	0	23
月 人数(名)	146	16	10	0	0	27	0	0	0	0	0	199
6 回数(回)	13	5	1	0	0	4	0	0	0	0	0	23
月 人数(名)	214	40	6	0	0	16	0	0	0	0	0	276
7 回数(回)	17	7	0	0	1	5	0	0	0	0	0	30
月 人数(名)	381	67	0	0	1	18	0	0	0	0	0	467
8 回数(回)	5	4	2	1	0	1	0	0	1	0	0	14
月 人数(名)	92	35	11	4	0	5	0	0	4	0	0	151
9 回数(回)	2	0	5	0	0	0	0	0	0	1	0	8
月 人数(名)	24	0	23	0	0	0	0	0	0	3	0	50
10 回数(回)	13	9	10	0	0	1	0	0	1	2	1	37
月 人数(名)	278	68	40	0	0	4	0	0	5	5	5	405
11 回数(回)	9	9	5	0	0	0	0	0	0	0	0	23
月 人数(名)	216	82	17	0	0	0	0	0	0	0	0	315
12 回数(回)	9	6	7	0	0	0	2	0	0	0	0	24
月 人数(名)	215	75	26	0	0	0	6	0	0	0	0	322
合 回数(回)	117	57	37	1	1	46	2	1	3	4	2	271
計 人数(名)	2,123	528	164	4	1	183	6	40	14	38	10	3,111

# 監 査 報 告 書

令和3年度決算報告書の各事項について監査したところ、  
その内容は適性なものと認めました。

令和4年2月1日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

監 事 阿部高久 

監 事 酒井 豊 

監 事 久保田 翔栄 

# 公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 桐生倶楽部

理事長 坪井 良廣 殿

令和4年2月1日

一般社団法人 桐生倶楽部

監事 阿部 尚久 

監事 酒井 豊 

監事 久保田 昇 

私たち監事は、令和3年1月1日から令和3年12月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

## 2 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

# 令和4年度 事業計画（案）

## 1. 理事会（毎月）・役員特別懇談会（年2回）・監査会（年1回）

## 2. 主な行事

1月	互礼会（中止）	歩く会例会	
2月	社員総会	歩く会例会	
3月	月次会	歩く会例会	
4月	月次会	歩く会例会	
5月	文化祭（絵画・写真等）	ガーデンパーティー （ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等）	歩く会例会
6月	月次会	歩く会例会	
7月	月次会	歩く会例会	
8月			
9月	月次会	歩く会例会	
10月	月次会	歩く会例会	
11月	月次会	歩く会例会	
12月	クリスマス祭	歩く会例会	

## 3. 委員会

### 1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(10部会)  
美術部会・麻雀部会・囲碁部会・ゴルフ部会・歩く会・  
写真部会・音楽鑑賞部会・旅行部会・歴史探訪部会・ぶらりまち歩き部会

### 2) 行事・交流委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

### 3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全
- ・修復事業のあり方

### 4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行
- ・社員名簿の作成

### 5) 総務委員会

- ・会館の貸借に関する件
- ・来訪者、入退会に関する件
- ・会費の徴収・文書処理に関する件
- ・消耗品の購入に関する件

### 6) 社員増強委員会

- ・社員増強拡大

### 7) 懇話会

### 8) 長期修繕委員会

### 9) 文化財研究委員会

### 10) 企画委員会

# 寄 付 芳 名 録

令和3年度

11月 文化財保護負担金  
(100,000円)

公益社団法人 桐生青年会議所  
理事長 黒 澤 卓 也 様

一般社団法人桐生倶楽部

定時社員総会報告

令和4年度定時社員総会は令和4年2月24日午後6時30分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は高梨理事の司会で、水越副理事長の開会の言葉に続き、全社員215名中173名(委任状152名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認したとの報告がなされた。坪井理事長の挨拶のあと、理事長が議長となり議事に入った。

第1号議案	令和3年度 事業報告	(藤江副理事長)
第2号議案	令和3年度 決算報告	(村田理事)
	監査報告	(阿部監事)
	令和3年度 公益目的支出計画実施報告	(村田理事)
	監査報告	(酒井監事)
第3号議案	令和4年度 事業計画案	(藤江副理事長)
第4号議案	令和4年度 収支予算案	(市川理事)
第5号議案	令和5年度 収支暫定予算案	(市川理事)

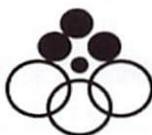
第1号議案から第5号議案の各議案のすべてが承認された。

高梨理事の閉会の言葉のあと7時10分閉会となった。

なお、令和4年度役員は昨年に引き続き下記のとおりです。

理事長	坪井良廣			
副理事長	宮地由高	藤江 篤	水越稔幸	
会計理事	村田勝俊	市川孝江		
理 事	山口正夫	北川 洋	根津紀久雄	前原 勝
	岸田信克	小林康人	栗原信治	森 末廣
	桑原志郎	高梨静江	堀 明	田中一枝
	須永博之	彦部篤夫		
監 事	酒井 豊	阿部高久	久保田寿栄	

以 上



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部

TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimu@kiryuclub.jp

## 令和4年度 定時社員総会

去る2月24日 気温3度と大変な寒空の中 令和4年度定時社員総会が 桐生倶楽部会館2階広間にて全社員 215名中 173名(内委任状 152)の参加にてコロナ感染対策を十分に考慮し開催されました。



2月担当理事の高梨静江さんの司会で総会の成立が告げられ、続く坪井理事長のご挨拶では、各種報告と共に、まん延防止等重点措置期間中の開催が大変危ぶまれたが、社員皆様の委任状提出のご協力の下 無事開催出来た事へのお礼と、今年の事業が無事行える事、そして来年度こそはコロナが収束し多くの社員の方々にご参加頂き総会を開催したいとの強い決意のお言葉が述べられました。

議長には坪井理事長が満場一致で選任、議事録署名人には小林康人氏及び田中一枝氏が選任され議事に入りました。

第一号議案 令和3年度事業報告では藤江副理事長から コロナ禍で各種事業が中止を余儀なくされたとの残念さを込めた報告が、第二号議案 同決算報告は

村田会計担当理事から細部に亘る詳細な報告がなされました。報告の中で固定費以外に100年を経過した桐生倶楽部会館建物の老朽化に伴う修繕費に多額の費用を要した事、そして まだまだ修理が必要な箇所が、多数有るとのご説明を聞き、今後も社員皆様のより一層のご協力無しには、桐生市の宝物の一つである、貴重な倶楽部会館の維持管理が出来ない事を痛感致しました。次に阿部監事からの元氣な監査報告を頂き、令和3年度 公益目的支出計画実施報告が同じく村田会計担当理事から行われました。その後酒井監事からの詳細な監査報告を頂き、一号・二号議案共に満場一致で承認されました。続いて第三号議案 令和4年度 事業計画案が藤江副理事長から、今年は全ての行事を無事行いたいとの思いを込めた上程がなされ、これも 満場一致で承認され、第四号議案 同収支予算案そして事業年度と次年度総会迄の繋としての第五号議案 令和5年度収支暫定予算案が市川会計担当理事から優しいお声での詳細なご説明がなされ、どちらも満場一致にて承認されました。

総会が行われる度にと思いますが、倶楽部事務局のご努力と共に村田、市川両会計担当理事にはお忙しい中、短時間での大変な作業を進めて頂く事に心からの敬意と感謝を申し上げます。どうかこれからも倶楽部運営の為、永く宜しくお願

致します。

以上、坪井議長の手慣れた議事進行と高梨理事の流暢な司会進行で無事に本年度総会は終了致しました。

今年こそは社員皆様と各種行事にて元気な笑顔で楽しくお逢い出来る事を楽しみに、整いませんが総会のご報告と致します。(水越稔幸 記)

### 1月歩く会例会

### 吾妻山ハイキング

新春の初歩きは恒例の吾妻山です。年末年始の好天が1月9日(日)この日も今迄にもまして風もなく青空が広がり暖かい日差しが広がっていました。

例年通り、吾妻山公園駐車場に午前9時頃から三々五々集まり新年の挨拶を



しました。駐車場は出ていく車が、空地を作ると直ぐに次の車が入り常に満車状態です。吾妻山の近年の人気ぶりを実感します。晴天の中11人が集合し簡単な準備運動後午前9時30分に出発しました。公園内は近所の急傾斜工事の為、通常の登山道が閉鎖されて少し迂回をしながら登り始めました。途中トンビ岩で少し汗ばみながら一息つき好天の中、気持ちよく歩きました。そこからは近年に出来た迂回路を歩き頂上を目指しました。頂上にはバラバラになりながら午前10時40分頃に着きました。そこには20人前後の人が休憩をしていました。そこからは東方面に東京のビル群及びスカイツリ

一、南東には遠くに白い富士山がくっきり見え、思わず手を合わせ桐生倶楽部の皆様の健康とご多幸をご祈念致しました。ここで1人が合流し途中3名が別れ9名が午前10時50分に下山を開始しました。長い階段を下り女吾妻山を經由して村松峠で一休み。ここからは個々に村松沢の杉林を抜けて新年会会場の「萬来軒」に向かいました。午後12時15分頃着。1人が会には欠席。ここで待っていた4人を加えて12名で、岸田理事の乾杯の発声で新年会を始めました。昨年の山行や今年の予定、行先に花が咲き紹興酒が疲れた体に少しずつ染み渡り時間がたつのも忘れ久しぶりに皆で話し込みました。午後1時30分に新井晴夫様の最近では珍しい「桐生メ」で締めとお開きとし、皆笑顔で散会しました。

今年も歩く会が素晴らしい1年になります事を御祈願しております。

(腰塚 富夫 記)

### テレ朝「百年名家」が 桐生倶楽部を取材

建築史研究家の内田青蔵先生(神奈川大学建築学部長)が昨年(2021)9月に来桐されて、桐生倶楽部会館をはじめ、桐生市内に残る古建築を視察されました。これをきっかけに3月5日(土)、内田先生とテレビ朝日『百年名家』板倉裕司ディレクターが再度来桐されました。お二人は、1月末に雨漏り修理が完了した桐生倶楽部会館をはじめ、桐生市内に残る古建築物の利用状況の詳細を調査・下見しました。その結果3月7日(月)、板倉ディレクター他「百年名家」の撮影スタ

ツフは、創建後百年を経た桐生倶楽部会館建物の詳細を撮影して下さいました。午後、スタッフは、「異国調菜芭蕉」(糸屋通り)、「有鄰館」(本町2丁目)、「四辻の斎嘉」(東久方町)などを撮影しました。「芭蕉」は昭和12年(1937)創業で現役のレストラン。

「有鄰館」は江戸時代から矢野商店が営んでいた醸造倉庫群を桐生市に寄贈、平成6年に桐生

市指定重要文化財となり、多目的催事会場として講演会・展覧会・演奏会など文化活動の拠点となっています。「四辻の斎嘉」は、大正時代創建の斎藤家(旧斎藤織物)旧宅を地元有志「桐生再生」が購入、補修工事の後、食事を含め観光拠点として活用されています。

BSテレビ朝日のオンエアは4月中旬水曜 22時からの予定、詳細は追ってお知らせします。(村田豊樹 記)



内田先生と板倉さん



撮影の様子



## 大樹、桜の木伐採

今回、桐生倶楽部会館中庭の桜の大樹を1本伐採しました。

理由は、桜の古木が、中が中空で、皮でやっと支えており、支柱等で支えるなど危険な状態でした。

又、新館の屋根に枝が伸び、落ち葉で樋がつまり、他には、隣の家には、太陽が影になり、洗濯物が乾かない、葉や虫が落ちるなど御迷惑をかけておりました。

伐採の前に、桐生倶楽部社員でもある、桐生天満宮神主と桐生山鳳仙寺住職の初めてコラボでのお祓いと、工事の安全祈願を致しました。めったに見られない写真をご覧ください。



下山造園さんにより作業は、無事に終わり、すっきりと広々と致しました。ご来館の折には散策をお願い致します。今年の春には、広々とした中庭の桜の下で、ガーデンパーティーを開催できたらいいなと願っています。(宮地由高 記)

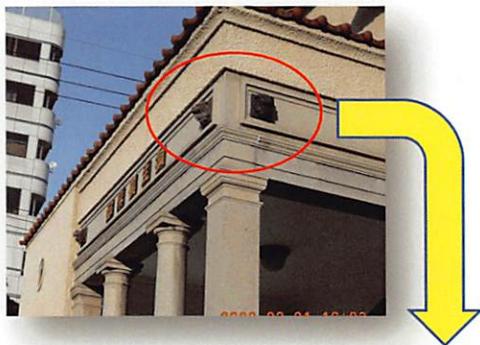


「獅子の面」40年ぶり  
正面玄関南面の定位置へ

社員の皆様ご存知でしたか？  
会館正面玄関を見上げると右から「桐生倶楽部」の刻字、両サイドに「獅子の面」南面に一基ありました。南面にあった面は昭和50年12月から破損。修理に当たって諸般の事情により紆余曲折、昭和・平成・令和と最終的に文明の力最新鋭時代に突入。3Dプリンターに望みをかけるも相手先より却下され、いずれも適当な修復者が見あたらず修理不可能な状態が続きました。たまたま長期修繕計画で出入の野村左官さんに相談を持ち掛けたところ「やってみる！」との返事・しかも無償で・・・感謝！！

遂に40年放置されていた獅子の面が令和4年2月に再設置されました。救世主はいるものですが、それにしても色々の方に当たっての40年は歳月の長さを感じます。(永井文子 記)

〈参考 獅子の面 魔除け 事業繁栄〉



—お知らせ—

新型コロナウイルス感染予防対策のため2年連続中止になったガーデンパーティー。

本年度は4月11日の理事会で決定いたします。ご報告は皆様に FAX いたします。



＝桐生倶楽部だより＝

[ 2月 ]

- ・監査会 ( 1日)
- ・理事会 ( 7日)
- ・歩く会例会 中止 (13日)
- ・桜、もみじのお祓い (16日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・定時社員総会 (24日)

[ 3月 ]

- ・歩く例会 中止 (13日)
- ・理事会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・会報委員会 (24日)

[ 退会社員 ]

玉上常雄(ご逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第248号  
2022年(令和4年)4月発行  
発行人 坪井良廣  
編集責任者 桑原志郎  
版下製作者 桑原志郎



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimu@kiryuclub.jp

## 日光・滝めぐりと 世界遺産「東照宮」 明治の館でランチ

4月10日(日)全国的に晴予報で朝から夏日を予感させる今日「歩く会4月例会」、思い返せば1月の吾妻山いらい。2月はコロナまん延防止が始まって中止、3月は大丈夫と思いきやまん延防止が延長されての2ヵ月連続の中止で、暫くぶりの行事の実施です。

参加者申し込みは13人で出発の予定でしたが、恒例の参加者のサイン帳への記帳中に体調不全による2名のキャンセルの連絡があつて、今日の参加者は11人となりました。(体調不良は誰にでも起こることなので日々気をつけなければと思います)

今日は皆さんの集まりが良く時間少し前に一路日光へ向けて出発、やっぱり天候が良いとすべてがいいのかなと心の中で一人思う。桐生では花びらが舞う桜も国道122号から見る渡良瀬溪谷鉄道の上神梅・本宿・水沼ではまだ満開に見える。車が北上して、群馬・栃木の県境トンネルを抜け原向駅付近の桜はまだまだ蕾、距離は僅か50~60キロの違いだが地形や標高等からの寒暖の差ですね。概ね予定通の10時少し過ぎ、裏見ノ滝駐車場に到着、集合写真を撮影後水の流れをはるか下に見る溪流沿いの道を10



分程度歩いて観瀑台着、滝は高さは19mだが近くで流れ落ちからこそ見応えが、又、マイナスイオンが感じられた。駐車場に戻り次の目的地「霧降の滝」に向かう。途中で昼食を予定している明治の館で時間の予約をお願いすると、土日は順番の予約との事、順番に間に合わなくても到着時点で考慮してくれるとの話を聞いて安心して霧降の滝に向かい11時少し過ぎに駐車場に到着、ここでも記念の集合写真を撮り観瀑台に向う、10分程度の歩きで周辺にヤシオツツジが咲く観瀑台ここから見る霧降の滝(三段、高さ75m)はチョット遠くもう少し近くまで行って見る事が出来ればと思う。

駐車場に戻り楽しみの昼食の明治館に向かい12時頃フロントに到着を告げると前庭で少しお待ちくださいと、前庭の順番待ちの人達に加わり、少し待っただけで案内のスピーカーで呼ばれたのは早く予約をしたおかげと思う。ベランダのテーブルに案内される。注文はメニュー

からそれぞれですが「オムレツライス」と「グラタン」になりましたが共に明治の館のおすすめの一品、特にオムレツライスは卵の中にエビがゴロゴロと入っていて美味しい(個人的感想です)。又、土産として人気のチーズケーキを購入し、店に預けて東照宮等の見学へ出かける。東照宮の参道で自由見学とし3時集合で解散、皆さん思い思いに見学先に足を向けて出かける。3時少し前にもう集まっていたので明治の館の売店で土産を受け取り帰路の向い予定の5時少し前に桐生倶楽部に帰着、車の中では5月の「善光寺・小布施」のPRをさせていただきましたので5月の例会が今から楽しみです、参加者の皆さん今日はありがとうございました。(新井晴夫 記)

終了後クラブハウスにて表彰式を兼ねてティーパーティーを開き全員参加で懇親を深めました。結果は下記の通りです。

優勝	腰塚富夫	
準優勝	森田良徳	
3位	長谷川義雄	
ベスコロ賞	42.42.84 長谷川義雄	

次回の「秋のゴルフコンペ」は10月末日に予定しておりますので大勢の参加お待ちしております。(腰塚富夫 記)



### 春のゴルフコンペ

今春は女性3名を含む総勢18名で、昨秋と同じ桐生カントリークラブで4月16日(土)に開催致しました。

当日は前日の春とは思えないような暑さとは真逆で、クラブハウスから一步出ると白い息が感じられるぐらいの寒さでした。おまけにコースに出ると全体が霧に包まれていて10m先が見えませんでした。しかし打順を待つ間に気温も上がってきてグリーンの方角から霧が風に乗って晴れてくる様子が幻想的で滅多に見られない光景を見る事が出来ました。コースを回る間に気温も上がり晴天の中気持ち良いゴルフが出来ました。

### 第3回桐生倶楽部アーカイブス

桐生倶楽部会報の倶楽部所蔵絵画紹介シリーズの中から、長年皆さんに親しまれている2点の油絵の記事を再掲します。

一点目は牧島要一画伯の「桐生倶楽部風景」(シリーズ第8回、会報第26号、昭和53年4月25日刊)です。もう一点は南薫造画伯の「静物」(シリーズ第14回、会報第32号、昭和55年11月1日刊)です。この2枚の絵は2号室にあります。絵画紹介シリーズは会報第19号(昭和50年11月10日発刊)から十数回にわたって連載されました。現在も倶楽部のホームページでご覧いただけます。(文化財研究委員会)

## 桐生倶楽部風景 牧島要一筆

東京美術学校の黄金時代に学び洋画の近代性を桐生市に伝えた初期の大切な一人であった牧島要一氏が桐生倶楽部に残してくれたこの作品は1936年と記され、他に同じ方向からもっと近づいてかかれた作品や正門から見た絵もあり、察するところかなり気に入った対象であり十分に考えられた末の作品と思われます。当時洋画に洋風な建物と庭のある風景を求めるには、桐生市で数少ない場所のひとつであり。桐生倶楽部が文化的にも洋風を桐生にいち早く取入れようとしていた意気とハイカラにあこがれる人々の感心事であり、この地方の鹿鳴館的な存在であったこと、又しのびよる戦時に前して大正デモクラシーの文化人の自由意識に於ては、洋画ではボナールやヴィヤールの親密派の思想傾向が穏便な文化人のそれをささえた背景があり、氏の傾向するところもそれに近かった様です。

岡田三郎助の学んだ彼が当然に外光派の手法を用いながらそれに内容を傾斜させようと求め、しかしボナールまでは進めず、わずかにルノアールの風をただよわせながら、前期印象派のマネヤピサロを感じさせる筆はこびとやわらかい明るい光線にあふれる情景にとどめているのは、氏自身あこがれたものまでつかめず、又当時の自由意識もそれと同じく求めながら育たずして、そのまま戦時にまきこまれて行った事情を桐生クラブの歴史と共に示した当館に残した重要な記念碑的なもののひとつでありましょう。

いくたびか私にこの絵のことを思い出話しとして、又絵の具の使用法と共に風景画の明暗の調子の作り方の参考として話してくださった師がなつかしくしのばれます。(解説 保倉一郎)



## 牧島要一 《桐生倶楽部風景》 1936年

## 静物 南 薫造筆

桐生倶楽部2号室に飾ってある10号の油絵静物画は、鮮やかな赤絵の九谷焼の壺に無造掲作に投込まれた花を描いた絵で、バックのブルーグリーンマッチして手ごろのブロンズ立像と絵皿部分が画面を引締め、この部屋(談話室)にふさわしい安らぎをかもし出す作品である。

この絵はどんな経由でここにあるのかいつの頃からクラブに飾られてのか定かでないが、昔から桐生倶楽部では貴重な価値ある作品として大切にしている。この絵を描いた南薫造さん(1883~1950)は広島県内海町のお生れで明治40年東京美術学校卒業、40~43年滞欧帰国の年、白馬会主催で有馬生馬との滞欧記念展を開き、文展でたびたび受賞、大正4年以降、文展、帝展の審査員をつとめた。また、日本水彩画会の創立に参加、昭和に入って東京美術学校教授、日本芸術院会員。掲出の静物は1918年の作で彼が35才の壮年期の作品である。

また彼の代表作に「5月の風」がある。

(解説 服部修)



南 薫造 《静物》 1918年

## BS朝日「百年名家」で 桐生倶楽部会館を紹介

4月20日(水)22:10、BS朝日の番組「百年名家」で「桐生倶楽部会館」がオンエアされました。プレゼンターの建築史研究家・内田青蔵先生(神奈川大学建築学部長)は、「桐生倶楽部の創始者・森宗作氏(1863-1932)のこと、当館の設計者・清水巖氏(1889-1975)のことに加え、建物の外観が日本最古のスパニッシュ・コロニアル建築で有ること、一方内装はセセッション様式で直線を多用して居ること、しかも現役の倶楽部として活用されて居る」と詳しく紹介して下さいました。

因みに「セセッション様式」は19世紀末にオーストリアで興った絵画・建築・工芸の革新運動で、後に20世紀初頭のモダニズム運動に繋がります。設計者・清水巖氏の斬新な取り組みを窺い知ることが出来ます。内田先生はオンエアに先立って3月5日(土)、テレビ朝日板倉ディレクターと共に桐生倶楽部会館をはじめ、桐生市内に残る古建築を視察、調査されました。

又、撮影スタッフが3月7日(月)、4月12日(火)、13日(水)の3日間にわたり桐生倶楽部会館並びに、桐生本町通りの古建築を撮影しました。

4月27日(水)22:00、「百年名家」は、「現在も有効利用されて居る古建築」というテーマで、異国調菜芭蕉(糸屋通り)、有鄰館(本町2丁目)、四辻の齋嘉(東久方町)、ベーカリーカフェ・レンガ(旧金谷レース建物)、同じく旬菜カフェ・自在庵などを紹介しました。特に、オンエアされた「桐生倶楽部会館」のDVDは倶楽

部事務所に備えて有ります。お時間都合の宜しい時に、お立ち寄り下さい。

(村田豊樹 記)



内田先生

ようこそ倶楽部へ

＝新入社員紹介＝

(敬称略)



＝倶楽部だより＝

[ 4月 ]	
・文化財研究委員会	( 8日)
・歩く会例会「日光滝めぐり・東照宮」	(10日)
・理事会	(11日)
・歩く会世話人会	(14日)
・春のゴルフコンペ	(16日)
・行事・交流委員会	(20日)
・BS朝日「百年名家」で「桐生倶楽部」放送	(20日)
・役員特別懇談会	(22日)
・写真部会	(28日)
[ 5月 ]	
・歩く会例会「善光寺御開帳と小布施町ぶらり」	( 8日)
・理事会	( 9日)
・歩く会世話人会	(12日)
・ガーデンパーティー	(中止)
・会報委員会	(27日)

桐生倶楽部事務局休業日

水、土、日曜日及び祝日



よろしくお祈りします。

一般社団法人 桐生倶楽部 第249号  
2022年(令和4年)6月発行  
発行人 坪井良廣  
編集責任者 桑原志郎  
版下製作者 桑原志郎



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jim@kiryuclub.jp

## 6月月次会

### 『桐生市と歩む群馬大学の活動』



コロナ禍により昨年11月以降中止となっていた月次会が、倶楽部社員でもある群馬大学大学院理工学部長・理工学部長 石間経章教授を講師にお招きし、7ヶ月ぶりに再開されました。

桐生市の工業の歴史、群馬大学理工学部の歴史、地方都市共通の課題、再生可能エネルギー導入等パワーポイントを使ってわかりやくご説明いただきました。最後に石間教授から学生を地域で育てるPBL教育について出席された19名の社員の皆さんに協力依頼があり、有意義な1時間が終わりました。

次回の月次会も感染防止対策を行い開催出来ればと思います。大勢の社員の皆様のご出席をお願いいたします。

(市川孝江 記)

## 歩く会5月例会

### 善光寺お開帳と小布施町ぶらり

5月8日(日)、10日間と云う大型連休の最終日で募集定員20名のなか19名の参加で予定通りの実施も4月5月と連続しての参加の皆さんのおかげです。

#### 「善光寺お開帳」

7年の一度のお開帳(実際は昨年でしたがコロナで一年送って開催)本堂前で記念の一枚を撮影の後、回向柱で参拝、回向柱は約50cm角の大きな柱で本当に立派な柱です。

ここで12時集合の自由散策として解散。皆さんは三々五々それぞれ思い思いに出かけていきました。場内整理の方に聞けば今日は少しすいているとの事ですが山門から眺める仲見世はお祭りのようでこれですいているとは、混雑では身動きが取れないようなことと思う。団体さん案内係の「坊」と「院」の説明が聞こえてきた。坊・院はそれぞれ独立した寺院で坊は浄土宗、院は天台宗とはなしていた。そろそろ集合の時間と思っていると皆さんはお土産をいっぱい抱えて集合していただきました。



## 「小布施町」

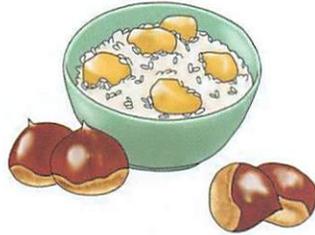
12時40分、桜井甘精堂において栗おこわ御膳を頂き、その後、北斎館の見学後、出発まで自由散策、皆さんそれぞれお土産を求めて甘精堂、小布施堂、竹風堂、と思いが、又、周辺の散策等を楽しんでいた。

この小布施町は1600年初めに市場町として生まれ栄枯盛衰を重ねて

今があって現在、全国の公共団体やまちづくり団体・関係者のモデルとして発展している。

街並みがそろっている中にバスの出入りができる駐車場であったり、一部ではあるが路地や中庭が散歩道だったりオープンスペースになるなど来町者に好印象を感じさせて、又訪れたいと思わせているのも町民と町が一致協力しての結果と云えると思います。

ここでも又お土産が沢山増えて帰路につき予定通りの桐生倶楽部着は参加された皆さんの協力のおかげです、ありがとうございました。(新井晴夫 記)



歩く会 6月例会 上信越国立公園  
チャツボミゴケ公園  
&ハツ場ダムを歩く

6月歩く会例会は、西上州中之条のチャツボミゴケ公園とお隣、長野原のハツ場ダムです。定刻前、出席者全員揃い、チャツボミゴケ公園に向けて出発。そこは昨年計画実行したが、時間が足りなくなり再度挑戦ということになった場所である。チャツボミゴケ公園は中之条の最奥部にあり、かつて国内第2位の生産量を誇る群馬鉄山の地域に存在する。

PH2.0~4.6程度の強酸に生育するチャツボミゴケは、世界中の蘚苔類約18,000種の中で最も耐酸性の強い特異な苔である。主として岩にへばりついて生育するチャツボミゴケの緑と今を盛りに咲くレンゲツツジのオレンジ、湧き出る清流の流れと新緑のハーモニーに時を忘れて堪能した。水と滝が織りなす地形は、どこか九寨溝を彷彿させるものがある。

帰り道、旧太子(おうし)駅に寄った。ここは群馬鉄山から索道(空中ケーブル)で集めた鉄鉱石を川崎製鉄所等へ貨車輸送した始発駅である。町では、そうした太子駅を観光資源として活用するため、当時のホッパー棟やホーム、駅舎の復元などを行い『旧太子駅』として一般公開を始めた。

次に最後の目的地ハツ場ダムに行きました。ここは昭和28年の計画から令和2年の完成まで、実に68年もの時間を要して造られたダムで、その間のいきさつについてはご承知の通りであります。堰堤を歩き、水面を見て、反対側の壁から

身を乗り出すように下を見て驚いた。はるか下(110m程)を歩く人間の小さいこと。堰堤中央部にあるエレベーターに1分間乗り、下に降りた。上を仰ぐと巨大なコンクリートの塊に圧倒される。発電所の入り口に人だかりがあり、並んでいる。発電所見学の人々の列だった。運よく見学の最終時間に間に合い、なんとか見学ができた。発電所内は普段無人で、大変きれいでしたが、音が大きくレシーバーの助けを借りなければ人の声が聞き取れないほどでした。エレベーターで地下3階まで下りて、発電機を見学しましたが、周囲に比べてコンパクトなのにびっくりしました。なぜか今日の後半は、懐かしい小学生時代の社会科見学を思い起こされるものがありました。

(岸田信克 記)



### ハッ場ダム見学

吾妻方面の旅ではハッ場ダムは途中でいつも車窓から眺め、湖畔の道の駅で休憩する程度のスポットでしたが今回はダムの堰堤を歩き中間点に設置されたエレベーターでダム底へ、ちょうど運良くダムの説明案内の最終グループに滑り込む事が出来ラッキーでした。

ヘルメットとヘッドホンを付けてエレ

ベーターで更にダムの下部に設置された発電室へ進み、貯水を落下させ水車を回しその力でタービンを回して発電しているのを間近に見ることが出来ます。広い発電室の壁面いっぱいに映像が映し出され、水車と発電機が回る轟音の中、発電のメカニズムについての説明は分かり易く迫力がありました。普段中々体験できないダムの体内ツアーです。

チャツボミゴケ公園、旧太子駅跡、ハッ場ダム巡りと曇り空の下、雨にも降られずラッキーが重なった楽しい一日でした。

(岩崎孜郎 記)



### 6月例会報告

8時15分定刻に参加者7人で出発しました。曇り空のもと雨は降らず快適なドライブでした。車は渋川から草津温泉経由でまず茶薔苔公園に到着、ここでしか見られない青いこけの群生地を赤ツツジとともに楽しみました。

次に六合赤岩の重伝建保存地区で固目の天そばを食べたあと、深い森の中を走って「旧太子(おおし)駅」に着きました。先の芳が平湿地郡から産出した鉄鉱石を運ぶために1945年に開業、1961年に群馬鉄山の閉山によって廃駅となりましたが、当時の積み込み棟やホーム、駅舎の復元などを行い、2018年から一般公開を始めたもので

す。最終目的地のハッ場ダムには午後4時到着。2014年着工、2020年竣工のダムの堰堤を徒歩で往復した後、エレベーターで116m下がって送水管、水車、発電機を見学しましたが、轟音で説明は殆ど聴こえませんでした。4時半に帰途につき、6時半に桐生倶楽部に戻りました。(山口一郎 記)

### 拡大文化財研究委員会開催

7月8日金曜日、拡大文化財研究委員会が開かれ、理事及び文化財研究委員の15名が参加し、講師に桐生市教育委員会文化財保護課 課長 萩原清史氏をお招きし群馬県内の指定文化財(近代建築)について講話があった。

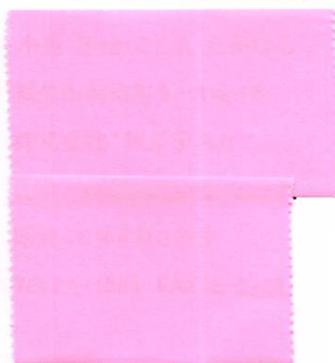
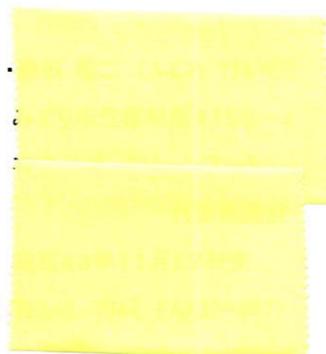


「桐生倶楽部の意義と価値」を考えるに当たり、県内散在の「近代建築」例えば、‘旧富岡製糸場(富岡)’ ‘旧新町紡績所(高崎)’ ‘臨江閣(前橋)’ ‘旧中島邸(太田)’ ‘明治館(桐生)’ 等国指定物件、県・市指定物件まで広く紹介。その上で桐生倶楽部の位置付や今後について、『既に殆どの国・県文化財関係者は桐生倶楽部を訪れ、当会館が他に先んじたスパニッシュコロニアル建築様式であることを熟知している。また現在も大切に保存活用されており、要は今後この様式がいつ指定物件として取り上げられるかであり、その時に備えた活動が大切』と熱く語られた。(彦部篤夫 記)

## ようこそ倶楽部へ

### =新入社員紹介=

(敬称略)



### =桐生倶楽部だより=

#### [ 6月 ]

- ・歩く会例会「チャツボミゴケ公園・ハッ場ダム」 ( 5日)
- ・歩く会世話人会 ( 9日)
- ・月次会「桐生市と歩む群馬大学の活動」 (10日)
- ・理事会 (13日)

#### [ 7月 ]

- ・拡大文化財研究委員会 ( 8日)
- ・理事会 (11日)
- ・歩く会例会「尾瀬沼」 (中止)
- ・歩く会世話人会 (中止)
- ・月次会納涼ガーデンパーティー (中止)
- ・会報委員会 (26日)

一般社団法人 桐生倶楽部 第250号  
 2022年(令和4年) 8月発行  
 発行人 坪井 良廣  
 編集責任者 桑原 志郎  
 版下製作者 桑原 志郎



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimu@kiryuclub.jp

## 9 月月次会

『まちづくりプロデューサーとしての  
これまでの活動とこれからについて』

今年度2回目の月次会は、新見直広さん（株）新見化学工業社長、桐生倶楽部社員）を講師にお招きし9月29日18時30分から約1時間にわたり広間にて開催されました。



新見さんの活動の原点には新見家伝統のチャレンジ精神があり、長じてからは人生の師との強烈な出会いがあつて、魅力ある桐生をもっと楽しいまちにする、自分の直感を信じ日常の連続性を否定してチャレンジするという決意が誕生したとのことでした。この決意が新規事業への挑戦となり、2022年度桐生商工会議所青年部会会長をはじめとする多くの公職への就任、まち起こしプロジェクトの中心的役割としての実践へとつながっていったというお話に参加者の方々は熱心に耳を傾けていました。

文字通り桐生のまちづくりプロデューサーとして大活躍中の講師に大きな拍手が寄せられ、講演会は終了しました。

参加者 31名 (村田勝俊 記)

## 10 月月次会

### 天蚕繭に魅せられて

10月29日(土)の、高梨・田中担当の月次会は、かねてから希望していた松井定夫氏の“天蚕繭”についての講演でした。

松井氏との出会いは、約10年前、彼の親戚で初めてお会いし、その際に長年勤めてきたJRを退職し、山でクヌギの葉を食べて育つ“ヤママユ”に魅せられて、まさに第2の人生を生きてゆこうとする時でした。その時、初対面にもかかわらず熱い情熱の思いを語って頂いたことは非常に印象的でした。その後、時折、新聞紙上等で活躍ぶりを拝見しておりましたが、約2年前、偶然にも、ある集まりの席で再開し、是非とも“天蚕繭”についての講演をと、強くお願いしたのが始まりでした。残念なことにコロナでなかなかその機会を得られず、今回やっと約2年ぶりに実現致しました。

川内の山中の土地を手に入れ、自ら開墾しクヌギの木を植林する。そのうえで、初めて卵を木に付ける作業に入ることができる御苦労と努力には



敬意の念しかありません。当日、30名の参加者、さすが松井氏の研究熱心さと変わらぬ情熱を実感しました。講演後、シヨールを1枚所望しました。うすい緑の肌は、『天女の羽衣』のように美しく恐れ多く、1本1本の細い糸から作られた方の努力を考えるとただただ感激しかありません。参加者の数名の方から、「桐生にそんな立派な方がいらしたんですね!!」と感嘆の声を聴くと、またひとしお感動でした。

追記 御夫婦いつまでもお元気で頑張ってください。素晴らしい人生です。



(田中一枝 記)

### 桐生市歴史まちづくり 講演会及び会館見学会

本催しは10月23日(日)、歴史や文化伝統を活かした事例としてこの度「桐生倶楽部の歴史・活動内容及び桐生倶楽部会館を公開すること」を目的に桐生市主催で実施致しました。具体的には前半は村田理事による「桐生倶楽部と桐生倶楽部会館について」と題した講演、後半は2班に分かれた庭園含む桐生倶楽部会館の見学を行ないました。

村田理事の講演では「桐生市・桐生織物が大正期～昭和10年代まで絶頂期を迎え、桐生倶楽部がその迎賓館、市を司る要人の団欒の場、意見交換の場として桐生織物の繁栄を支えて来たことや、動画で桐生ヶ丘公園の今昔も観させて頂きビジネスで来桐の要人や織物に精を出した織物関係者が憩いの場・安らぎの場として桐生ヶ丘公園に求めたこと等も紹介頂きました。参加者によるアンケート

は、前向きな意見がたくさん寄せられました。

また桐生倶楽部員としては坪井理事長を筆頭に文化財研究委員会メンバー中心で、桐生市内外の地域住民に桐生倶楽部の歴史・活動そして会館自体を紹介出来たことは大変良かった。今後も桐生倶楽部を官民一体となったイベント会場としての活用や、直近では引続き歴史的風致形成建造物指定に向けた活動を計画して行きたいと考えています。ご協力よろしくお願い致します。

参加者43名(一般市民25名、桐生市staff7名、桐生倶楽部員11名)(彦部篤夫 記)



### ぶらりまち歩き部会 9月例会 日光例幣使街道を歩く 倉賀野宿から玉村宿へ

9月25日(日)暫くぶりのぶらりとまち歩きです。今回は「歴史の道歩き」として、日光例幣使街道を起点の倉賀野宿から最初の宿場である玉村宿までぶらりと歩いてきました。

JR桐生駅7:30発、高崎駅の乗り換えは2分の忙しさでJR倉賀野駅8:29着で日光例幣使街道起点の倉賀野へ移動でぶらりまち歩きが始まりました。

駅からぶらぶらと中山道(旧国道 17号)の倉賀野宿へ。旧宿場町の面影を残す建物が点在する静かな街並みぶらぶらし、時間も早くオープン前でしたが待ち受けていた「古商家おもてなし館」に立ち寄ることが出来ました。中ではいろいろと話をおききして(ここ倉賀野は平安、鎌倉時代の倉賀野氏居城が廃城となり、江戸時代の街道整備で江戸から 12 番目の宿場で烏川舟運拠点と日光例幣使街道の追分として繁栄)中山道・日光例幣使街道の分去れに、そこには閻魔堂、常夜灯そして道標、馬頭観世音等が往時をしのばせている。

ここから日光東照宮までが日光例幣使街道(江戸時代朝廷から日光東照宮例大祭に幣帛を奉獻するための勅使(日光例幣使)が通った道をいう)です。しばらく歩くと高崎線の踏切です。そして国道 17 号線をこえて群馬の森へ突き当たり、当時はこのまま進んだのが現在は原子力研究所で道路は「観音山古墳」の方へ迂回して玉村宿に向かう。当時街道から少し離れて見えていた小山に見える古墳を旅人はどう思って眺めていたのかと思う事や赤城・榛名・妙義の山々を始めしゅういが遠くまで見渡らせる四季折々の街道の風景は旅人のところを十分に和ませたことと思う。

車では見えないいろいろなものが見えるのもぶらり歩きの面白味です。また玉村町は街道の形態そのまま中心付近の神明宮の大きいことと参拝者が見えることにただただ驚き。

今年は台風の発生が何故か多く土日の天気崩れあり何かと心配した天気も晴天の夏日で素晴らしい一日になりました

ことに感謝。

(記 新井晴夫)

### 群馬県立歴史博物館

皆さんは群馬の森にある「群馬県立歴史博物館」をご存知でしょうか。

上野三碑に代表されるように、古墳時代の群馬は大変栄えていたようで、あちこちの古墳から出土された埴輪の数の多さに驚かされます。

桐生近郊の千網谷戸の耳飾り・相沢忠洋が発見した黒曜石の矢じりは言うに及ばず、県内の縄文時代化から古墳時代までの出土品が数多く展示され、保存状態の優れた埴輪は国宝に指定されています。歴史に興味のある方、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。そこは「魅力の小宇宙」一見の価値あり、請け合いです。



(岸田信克 記)

### 綿貫観音山古墳

群馬県立歴史博物館を見学したのち、歩いてすぐ近くの綿貫観音山古墳を訪れる。この古墳は墳丘、横穴式石室共に公開され、また、案内人もいて詳しい説明を聞くことが出来ます。

長さ 97m、幅 64m、高さ 9.6 の大きさに 6 世紀後半に造られたもので、幸いにも盗掘されず、墳丘に置かれた埴輪は無造作に転がっていたそうです。墳丘の上に登ると想像以上に大きく、遠く上毛三山が見渡せ、周りの建物がなかった時代には目立つ構築物だったと思われます。

横穴式石室の狭い入り口を抜けると奥は人が立てる高さでかなり広い空間になる。ここには中国、朝鮮から渡来した品物をはじめ、豪華で多種多様な考古学上とても貴重な副葬品が置かれていました。

石室に初めて入りましたが、この石室が1,500年前の豪族のお墓と思うと感慨深いものがあります。埴輪と副葬品は群馬県立歴史博物館に展示され、多くのものが国宝に指定されています。

興味のある方は博物館と一緒に見学することをお勧めします。(栗原信治 記)



秋のゴルフコンペ

今秋のゴルフコンペは、11月5日(土)、桐生カントリークラブで開催いたしました。当日は11月とは思えないような暖かな晴天に恵まれ、皆様日頃の練習の成果をそれなりに発揮し、楽しくラウンドされました。

元理事長の阿部さんをはじめ諸先輩方、2名の女性も含め16名に参加して頂きました。プレー後クラブハウスにて表彰式をティーパーティーで行い、お互いの健闘を称え親睦を深めました。成績結果は、優勝は田中淳氏、準優勝は津久井真澄氏、3位は野沢八千万氏、その他トビ賞を含めて、全員に賞をお渡ししました。次回は令和5年4月を予定していますので、皆様のご参加を宜しくお願いいたします。

(腰塚富夫 記)



ようこそ倶楽部へ



=桐生倶楽部だより=

- [ 8月 ]
  - ・理事会 (中止)
- [ 9月 ]
  - ・歩く例会 (中止)
  - ・理事会 (12日)
  - ・歩く会世話人会 (15日)
  - ・ぶらりまち歩き部会例会「倉賀野宿から玉村宿へ」 (25日)
  - ・文化財研究委員会 (27日)
  - ・自衛防火訓練 (29日)
  - ・月次会 「まちづくりプロデューサーとしてのこれまでの活動とこれからのについて」 (29日)
- [ 10月 ]
  - ・歩く会例会「秋の信州戸隠ハイキング」 (9日)
  - ・理事会 (11日)
  - ・歩く会世話人会 (13日)
  - ・桐生歴史まちづくり講演会 (23日)
  - ・月次会「天蚕繭に魅せられて」 (29日)
- [ 11月 ]
  - ・秋のゴルフコンペ (5日)
  - ・歩く例会「紅葉と眺望の鳴神山」 (13日)
  - ・理事会 (14日)
  - ・歩く会世話人会 (17日)
  - ・月次会「明るい桐生市の未来をつくるため産業観光の推進」 (中止)
  - ・会報委員会 (24日)
- [退会社員]
  - 藤江 篤(ご逝去)
  - 田中義弘(ご逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第251号  
2022年(令和4年)12月発行  
発行人 坪井 良廣  
編集責任者 桑原 志郎  
版下製作者 桑原 志郎

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp

## 新年のご挨拶 理事長坪井良廣



期待し、本年も皆様が御健勝で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

令和5年の年頭に当たり、謹んで新春をお祝い申し上げます。

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

この2年、社会は大きく変化し、グローバル化、デジタル化が一層進み、経済発展とともに幸せで持続可能な社会像が描かれています。しかし、一方では気候変動、人口・食糧問題さらには世界の平和をゆるがすようなウクライナにおける戦火など解決されなければならない喫緊の課題にも直面しています。

桐生倶楽部は、総勢215名で創始の志を継承し、社員相互の親睦、公益に関する考究を目的とした文化活動の拠点として活動してまいりました。残念ながら新型コロナウイルス感染で、ほとんどの活動が行えない状態になっております。

3年以上にわたる新型コロナウイルス感染症の流行は、皆さんの暮らしに、さぞ大きな影響を与えたことと思います。新型コロナウイルス感染症については、今また新たな変異株の流行も予想されており、依然として予断を許さない状況であることに変わりありませんが、今年こそ数多くの行事が実施できますことを

## 新年互礼会



令和5年1月4日、3年ぶりに(社)桐生倶楽部新年互礼会が社員55名の参加を得て、開催された。

コロナ禍でのこともあり、招待者なし、飲食・会食なしの非常にタイトな内容で行われた。その中でテレビ番組「百年名家」鑑賞 BS朝日放映のビデオが流れると、社員の様子は釘付けにされた。画面を通して発せられるオーラに、これだけの価値ある歴史的建造物は大切に後世までに残さなければならないと意を強くした。

(岸田信克 記)



## 歩く会 10月例会 秋の信州戸隠 ハイキング

清涼な空気と紅葉の始まった戸隠高原と歴史ロマンの古道をたどり、戸隠蕎麦の味を楽しんだ後、長野県立美術館で東山魁夷を中核とする信州の絵画を鑑賞した。

令和4年10月9日(日)に13名の参加を得て、薄曇りの天気の中を、午前6時に桐生倶楽部を出発。関越道の山並みの眺めの楽しめる車中であつた。

7:30 横川 IC 着。8:40 松代出口発。  
9:35 奥社参道入口着、白樺林とススキの群落が見事である。10:00 隋神門着。ここからの道は次第に登りとなり、最後は長い階段道となって神秘に満ちた静かな奥社に到達した(11:00)。

隋神門からみどりが池、鏡池への予定であつたが、時間の都合で変更し、奥社参道コースに戻った。車の渋滞に従いながら進み、ようやく車列の切れたところで蕎麦屋を見つけ、静かな店内にゆったり座って戸隠蕎麦を味わった(12:50)。山を下って本年5月に訪れた善光寺の近くに来ると、丘の上が長野県立美術館である(13:40)。寺を見下ろす高台の上に瀟洒に立っている。

1990年に開館した東山魁夷館は所蔵点数が970点あまり、自然を深く見つめ、静謐な世界を表現した東山芸術の全容を紹介している。15:10 同美術館発。途中で横川SAに寄って、18:50 桐生倶楽部に無事に着いた。

(山口一郎 記)



## 歩く会 11月例会

### 眺望と紅葉の鳴神山

11月は地元の鳴神山に登りました。鳴神山はカッコソウが地球上に唯一自生していて、また、981mと低山ながら沢あり、岩場ありの変化に富んだ山で人気があります。



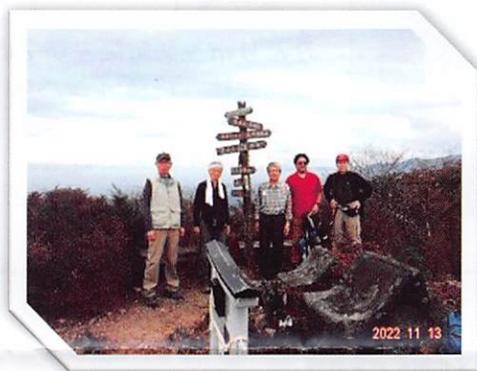
今日の参加者は5名、桐生駅から市バスで1時間かけ川内の終点吹上迄行く。登山口の駐車場はすでに満車で、他県ナンバーも数多く駐車していました。薄日が差す天気の中全員元気に出発。

ここから山頂まで登山道に沿って、網で囲った場所が数多くあります。案内板によると、これは鹿等の食害から国内希少植物種に指定されているレンゲショウマやカッコソウなどを守り育成する、保

護ネットと記されていました。確かに登山道の左右の斜面にはほとんど草が生えてなく、食害の凄さを実感しました。多くの人の活動に支えられ、希少植物が守られていることを知り、鳴神山の自然を守る人達のご苦労に感謝です。

約2時間かけて頂上直下の雷神岳神社に到着。一息いれ主峰の桐生岳(981m)に登る。ここからは360度景色が見渡せ、今日も南に関東平野が広がり、北には日光白根山、男体山、皇海山、赤城山の日本百名山が見え素晴らしい景色でした。

鳴神山は双耳峰で、昼食後もう一つの仁田山岳に寄って下山開始。この時期、登山道は落ち葉で埋もれていて滑りやすく、慎重に下る。予定していた吹上発13:40のバスに乗り、桐生駅に無事戻る。鳴神山の晩秋の自然と眺望を満喫した登山でした。(栗原信治 記)



## 歩く会 12月例会 東京-国立競技場と 本郷・上野ぶらり

◎12月11日の朝7時に桐生倶楽部を出発。9時50分に国立競技場の東京オリンピックスタジアムに到着。10時の開門を待って東京オリンピック記念博物館を見

学した。古代ギリシアに始まった古代オリンピックの遺跡や当時は戦争を休止して行われた競技の様や遺跡の写真の展示。クーベルタン男爵の提唱により1896年にギリシアのアテネで創始された近代オリンピックの歴史と発展の様子が2021年の東京大会までさまざまに展示されている。特に興味深かったのは動きを加えた展示であった。例えば、競技のように体を動かすと動きが線で描画され、被検者と選手の動きが同時に表示されて、競技を体感するものがあつた。参加国数と規模の増大の反面、最近発覚した汚職事件が大会の理念に甚大な傷をつけたのは残念である。再度バスに乗って、12時に訪ねた東京大学では、正門に安田講堂がそびえ、葉の散りかけた銀杏並木、図書館、赤門、三四郎池などを散歩した。80年前の雰囲気が残っていた。しかし周辺には高層ビルが立ち並び、様相は一変している。東大から不忍池まで歩き、昼食を摂った。たまたま入った中華料理店は値段も手頃で味も良かった。バスで配られたコロナの割引券を使って買い物を済ませ、旧岩崎邸庭園に入った。明治初期に建てられた洋館建築が広大な芝生に取り囲まれている。最後の訪問地の横山大観記念館を見た後、バスに乗って夕陽を眺めながら帰途につき、6時半に桐生倶楽部に到着した。(山口一郎 記)



◎12月11日、暫くぶりの東京方面です。理事長も参加され総勢18名での実施となり大変うれしく喜ばしい限りです、又、出発時間も最初に見学を予定しているオリンピックミュージアムの入館時間10時に合わせてほんの少しだけ遅めの午前7時30分。忙しい朝がチョット遅めは如何でしたか。バスは予定の10時少し前にオリンピックミュージアムに到着、入館見学の後、ミュージアム前の国立競技場（土、日は使用されているため見学不可）の外観を見学していると大勢の皆さんがだんだんと集まってきているので話を聞いてみる。皆さんはサガン鳥栖のサポーターで、この日はJFA-U18プレミアリーグ決勝戦でその応援に九州から前日に上京とのこと、皆さんご苦労様です。バスは次の東京大学へ移動、昼食を予定していた学生食堂はコロナ感染拡大防止のため日曜休館、構内見学の後に昼食場所をスマホで検索して池之端・東天紅に決めて移動するも予約客の対応だけの事で残念、移動のエネルギー消費で空腹感が大きくなる。（スマホ検索時に問い合わせをしておけば空振りにならなかったと反省）幸いにも近くの中華店に全員で入ることが出来てひと安心、味・量・値段に満足（個人的見解です）して、旧岩崎邸から横山大観記念館（大観の和風の住いをそのままの記念館で何故かほっとする居心地が良い）と見学をして予定の4時を少し過ぎに東京出発し帰着予定の午後7時の少し前に桐生倶楽部に到着・解散。今回の例会が全国旅行支援の対象で旅行経費の4割が助成されること及び東京都の支援（当日限りの千円のクーポン券）になりましたので、参加費について6千円から4千円に減額、又、東京都のクーポン券については皆さんに配布しましたが、特別に観光の時間や場所の予定がないことから、昼食代にとっ

ましたが、残念でしたが中華店では使用できず、時間の制約もある中で旧岩崎邸への移動に少し遠回りになりましたが時間を割いてドンキ・ホーテ上野店でクーポン券を使用することが出来たのは予定外の嬉しい人コマ。オリンピックミュージアム、国立競技場、東大構内から湯島天神前、旧岩崎邸、横山大観記念館と池之端をぶらりで歩数は、約13,200歩。皆さんの協力で楽しい一日になりました、ありがとうございます。（新井晴夫 記）

## ようこそ倶楽部へ

＝新入社員紹介＝ (敬称略)



・ランドルフ留利子



かねこゆうと  
・金子勇人

## ＝桐生倶楽部だより＝

- |                           |       |
|---------------------------|-------|
| 【12月】                     |       |
| ・文化財研究委員会                 | (9日)  |
| ・歩く例会「東京・国立競技場と本郷・上野をぶらり」 | (11日) |
| ・理事会                      | (12日) |
| ・歴史的建造物について打ち合わせ          | (22日) |
| ・写真部会                     | (23日) |
| ・新年互礼会準備                  | (27日) |
| 【1月】                      |       |
| ・新年互礼会                    | (4日)  |
| ・歩く例会「吾妻山」                | (8日)  |
| ・理事会                      | (10日) |
| ・歩く会世話人会                  | (12日) |
| ・会報委員会                    | (26日) |

一般社団法人 桐生倶楽部 第252号  
2023年(令和5年) 2月発行  
発行人 坪井 良廣  
編集責任者 桑原 志郎  
版下製作者 桑原 志郎

# 令和5年度 定時社員総会

日時：令和5年2月24日

一般社団法人 桐生倶楽部

# 次 第

## 1. 開会のことば

### 1. 総会成立報告

### 1. 理事長あいさつ

### 1. 議長選任

### 1. 議事録署名人選出

## 1. 議 事

第1号議案	令和4年度	事業報告
第2号議案	令和4年度	決算報告 監査報告
	令和4年度	公益目的支出計画実施報告 監査報告
第3号議案	役員改選 正副理事長互選 新理事長挨拶	
第4号議案	令和5年度	事業計画案
第5号議案	令和5年度	収支予算案
第6号議案	令和6年度	収支暫定予算案
第7号議案	その他	

## 1. 閉会のことば

# 令和4年度 事業報告

自 令和4年1月1日  
至 令和4年12月31日

一般社団法人 桐生倶楽部

社員総数	215名（名誉社員0名、正社員215名） 内 訳（法人12社、個人203名）
入 社	6名（内法人0）
退 社	11名（内法人0）
行事・集会	61回 新年互礼会中止、文化祭中止 ガーデンパーティー中止、納涼ガーデンパーティー中止 クリスマス祭中止、総会1回、理事会11回、 正副理事長会議1回、 正副理事長＋会計理事＋営繕正副委員長会議1回、 役員特別懇談会1回、 監査会1回、 消防訓練2回、 桜、もみじの御祓い1回、 BS朝日「百年名家」撮影、放送1回、 歴史まちづくり講演会及び桐生倶楽部見学会1回、 近代化遺産公開3日間、  月次会3回、  委員会11回 （文化活動委員会、行事・交流委員会2回、営繕委員会、 会報委員会5回、総務委員会、社員増強委員会、懇話会、 長期修繕計画委員会、文化財研究委員会4回）  部会23回 （歩く会7回、歩く会世話人会11回、ゴルフ部会2回、 写真部会2回、美術部会、麻雀部会、 囲碁部会毎週土曜日碁会、ぶらりまち歩き部会1回、 音楽鑑賞部会、旅行部会、歴史探訪部会）
そ の 他	会報5回発行

令和4年度

室別使用状況

月	広 間	1 号	2 号	4 号	5 号	6 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	全 館	テ ラ ス	合 計
1 回数(回)	6	2	5	0	0	1	0	0	0	0	0	14
月 人数(名)	87	19	20	0	0	3	0	0	0	0	0	129
2 回数(回)	4	1	2	0	0	3	0	1	0	0	0	11
月 人数(名)	60	5	9	0	0	12	0	11	0	0	0	97
3 回数(回)	7	4	2	0	0	4	0	1	1	1	0	20
月 人数(名)	145	37	9	0	0	17	0	6	6	3	0	223
4 回数(回)	9	6	0	1	0	5	0	1	1	1	0	24
月 人数(名)	192	61	0	6	0	18	0	40	7	6	0	330
5 回数(回)	11	5	2	0	0	4	1	0	0	2	0	25
月 人数(名)	280	39	11	0	0	18	1	0	0	7	0	356
6 回数(回)	12	5	2	0	1	3	0	0	0	0	0	23
月 人数(名)	339	40	10	0	5	16	0	0	0	0	0	410
7 回数(回)	10	6	2	0	2	7	1	0	0	0	0	28
月 人数(名)	292	64	11	0	8	21	1	0	0	0	0	397
8 回数(回)	9	7	1	0	0	2	0	0	0	0	1	20
月 人数(名)	201	66	6	0	0	7	0	0	0	0	3	283
9 回数(回)	11	9	2	0	1	3	0	0	0	3	0	29
月 人数(名)	264	69	10	0	5	20	0	0	0	11	0	379
10 回数(回)	12	6	1	0	1	2	0	0	1	1	0	24
月 人数(名)	316	47	6	0	5	8	0	0	7	43	0	432
11 回数(回)	9	7	2	0	0	1	0	0	0	5	0	24
月 人数(名)	269	62	9	0	0	2	0	0	0	44	0	386
12 回数(回)	12	5	1	1	0	2	0	0	0	1	0	22
月 人数(名)	207	50	4	2	0	13	0	0	0	5	0	281
合 回数(回)	112	63	22	2	5	37	2	3	3	14	1	264
計 人数(名)	2,652	559	105	8	23	155	2	57	20	119	3	3,703

# 監 査 報 告 書

令和4年度決算報告書の各事項について監査したところ、  
その内容は適性なものと認めました。

令和5年2月2日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

監 事 阿部高久 

監 事 酒井 豊 

監 事 久保田 耕 

# 公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 桐生倶楽部

理事長 坪井 良廣 殿

令和5年2月2日

一般社団法人 桐生倶楽部

監事 阿部高久 

監事 酒井 豊 

監事 久保田 平栄 

私たち監事は、令和4年1月1日から令和4年12月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

## 2 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

# 役員改選

## 新理事（案）

山口 正夫	坪井 良廣	前原 勝	宮地 由高
村田 勝俊	水越 稔幸	小林 康人	栗原 信治
森 末廣	桑原 志郎	高梨 静江	市川 孝江
堀 明	田中 一枝	須永 博之	彦部 篤夫
酒井 豊	久保田 寿栄	野口 秀樹	星野 尚香

## 新監事（案）

阿部 高久	北川 洋	岸田 信克
-------	------	-------

## 新顧問（案）

阿部 高久	森 壽作
-------	------

# 令和5年度 事業計画（案）

## 1. 理事会（毎月）・役員特別懇談会（年1回以上）・監査会（年1回）

## 2. 主な行事

1月	新年互礼会	歩く会例会
2月	社員総会	歩く会例会
3月	月次会	歩く会例会
4月	月次会	歩く会例会
5月	文化祭（絵画・写真等）	ガーデンパーティー （ゴルフ大会・麻雀大会等）
6月	月次会	歩く会例会
7月	月次会	歩く会例会
8月		
9月	月次会	歩く会例会
10月	月次会	歩く会例会
11月	月次会	歩く会例会
12月	クリスマス祭	歩く会例会

## 3. 委員会

### 1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(9部会)  
美術部会・麻雀部会・ゴルフ部会・歩く会  
写真部会・音楽鑑賞部会・旅行部会・歴史探訪部会・ぶらりまち歩き部会

### 2) 行事・交流委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

### 3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全
- ・修復事業のあり方
- ・貸会館事業の見直し

### 4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行
- ・社員名簿の作成

### 5) 総務委員会

- ・会館の貸借に関する件
- ・来訪者、入退会に関する件
- ・会費の徴収・文書処理に関する件
- ・消耗品の購入に関する件

### 6) 社員増強委員会

- ・社員増強拡大

### 7) 懇話会

### 8) 長期修繕計画委員会

### 9) 文化財研究委員会

### 10) 企画委員会

# 寄付芳名録

令和4年度

12月 文化財保護負担金  
(100,000円)

一般社団法人 桐生青年会議所  
理事長 深澤 佑 太様

12月 上げ下げ窓仕組み一式

大澤木工有限公司

一般社団法人桐生倶楽部

定時社員総会報告

令和5年度定時社員総会は2月24日午後6時30分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は小林理事の司会で、開会の言葉に続き、全社員212名中161名(委任状126名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認したとの報告がなされた。坪井理事長の挨拶のあと、坪井理事長が議長となり議事に入った。

第1号議案	令和4年度 事業報告	(宮地副理事長)
第2号議案	令和4年度 決算報告	(村田理事)
	監査報告	(酒井監事)
	令和4年度 公益目的支出計画実施報告	(村田理事)
	監査報告	(久保田監事)
第3号議案	役員改選	(坪井理事長)
第4号議案	令和5年度 事業計画案	(宮地副理事長)
第5号議案	令和5年度 収支予算案	(市川理事)
第6号議案	令和6年度 収支暫定予算案	(市川理事)

第1号議案から第6号議案の各議案のすべてが承認された。

水越副理事長の閉会の言葉のあと午後7時30分閉会となった。

なお、総会終了後臨時理事会が開催され、正副理事長が選定された。承認された理事及び監事は下記のとおりです。(太字は新任)

理事長	坪井 良廣					
副理事長	宮地 由高	水越 稔幸	小林 康人			
会計理事	村田 勝俊	市川 孝江				
理事	山口 正夫	前原 勝	栗原 信治	森 末廣		
	桑原 志郎	高梨 静江	堀 明	田中 一枝		
	須永 博之	彦部 篤夫	酒井 豊	久保田寿栄		
	野口 秀樹	星野 尚香				
監事	阿部 高久	北川 洋	岸田 信克			

以上



## 桐生倶楽部 入社審査申請書

### 個人会員

<b>氏名</b>	<b>生年月日</b>	ふりがな	生年月日 ( . . 生)	<b>&lt; 票 決 &gt;</b>
<b>自宅</b>	<b>住所</b>			賛成 票 不賛成 票 中立 票
	電話/FAX	TEL	FAX	
	携帯電話番号			
<b>勤務先</b>	<b>会社名 役職名</b>			判定 ( )
	<b>住所</b>			
	電話/FAX	TEL	FAX	
<b>入部を希望する部会</b>				判定日 . .

### 法人会員

<b>会社名</b>	<b>代表者名</b>	ふりがな		<b>&lt; 票 決 &gt;</b>
<b>所在地</b>	<b>電話/FAX</b>	TEL	FAX	賛成 票 不賛成 票 中立 票
	<b>住所</b>			
<b>入部を希望する部会</b>				判定 ( )
<b>代理者の氏名・連絡先</b>				判定日 . .

上記、桐生倶楽部の新入社員として紹介申し上げますのでご審査願います。

年 月 日

紹介者

印

紹介者

印

令和5年4月10日

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail:jimu@kiryuclub.jp

## 令和5年度 定時社員総会

2月24日令和5年度定時総会が桐生倶楽部二階大広間にて出席者161名（内委任状126名）の参加にてコロナ感染予防を十分に考慮し開催されました。決議に必要な社員の定足数を満たしており総会が成立することを報告された。坪井理事長の挨拶のあと、坪井理事長を議長とし審議に入りました。

第1号議案令和4年度事業報告は宮地副理事長から説明がなされ、第二号議案令和5年度収支決算報告は会計担当の村田理事から。酒井監事より2月2日に会計監査を実施したところ、内容は適正なものと同められた旨の監査報告があり、全員異議なく承認されました。

また、令和4年度公益目的支出計画実施報告については資料に基づき会計担当の村田理事から説明がなされ、久保田監事から2月2日に監査を実施し、その内容は適正なものと同監査報告がなされた。全員異議なく承認されました。

第3号議案役員改選は、議長は理事に下記の者を指名し、可決決定しました。理事に山口正夫氏 坪井良廣氏 前原勝氏 宮地由高氏 村田勝俊氏 水越稔幸氏 小林康人氏 栗原信治氏 森末廣氏 桑原志郎氏 高梨静江氏 市川孝江氏 堀明氏 田中一枝氏 須永博之氏 彦部篤夫氏 酒井豊氏 久保田寿栄氏

野口秀樹氏 星野尚香氏が選任され、監事に阿部高久氏 北川洋氏 岸田信克氏が選任されました。続いて、理事長 坪井良廣氏 副理事長 宮地由高氏 水越稔幸氏 小林康人氏が選任され、新執行部を代表して坪井理事長よりあいさつがありました。

第4号議案令和5年度事業計画（案）第5号議案令和5年度収支予算（案）第6号議案令和6年度収支暫定予算（案）を議場に諮ったところ全員異議なく承認された。以上で全議事が終了し議長は退任し、7時30分閉会となりました。

（小林康人 記）



### 1. 令和4年度決算概要

#### (1) 収支計算書

- ① 令和4年度の総収入は10,115千円、総支出は11,665千円、当期収支差額は▲1,550千円となりました。昨年度の特異要因（雨漏り関係の保険料収入2,503千円）を除いて2期の総収入を比較しますと166千円の増加となります。これは会員数減少に伴う会費収入減を会館使用料増と桐生市からの補助金給付（自動体温計購入費）、新規入会者の入会金増等で補ったことによります。

②総費用は昨年度比 2,135 千円の減少でした。昨年度の特異要因（雨漏り関係修理支出）を除くとほぼ昨年並みの支出です。なお、水道光熱費・通信費などは予算内に収まりましたが、増加傾向にあり今後注意を要します。

#### (2) 貸借対照表

上記の結果を踏まえ、当年度末の現預金残高は昨年度末比 1,550 千円減の 4,074 千円となりました。

### 2. 令和 5 年度収支予算概要

(1) 総収入は会費収入を中心に月次会費 180 千円を見込み、10,293 千円としました。

(2) 総費用は事業費予算を 1,500 千円とし、修繕費は経常的な範囲にとどめ年 800 千円（前年予算比 3,200 千円減少）とする一方、消耗品費では故障した 6 号室のシャンデリアの新調や損傷が進んできた 4 号室、5 号室のカーテンの取替を織り込んでいます。全館のガス・エアコンのリースは令和 5 年 12 月初めに 10 年のリース期間の満了を迎え、その後再リースとなるため、再リース料を加算しています。（令和 6 年度からは再リース料のみとなるため費用は大幅に軽減されます）また、最近コストアップとなっている水道光熱費と通信費の予算を増やしました。

(3) 以上の結果、総収入 10,293 千円に対し、総費用は 10,265 千円となり収支差額は 28 千円のプラス予算となっています。

### 3. 令和 6 年収支暫定予算概要

総収入は令和 5 年度予算と同一ですが、総費用では、リース料の減少と消耗品費の減少で修繕費の増加をカバーし、令和 5 年度予算と同じく若干ながら（55 千円）黒字予算となっています。なお、あくまでも暫定予算であり、来年度本格的に年度予算を組むこととなります。

### 4. 課題

令和 5 年度予算では会館の修繕を経常的な営繕にとどめていますが、会館北面や屋根瓦の大規模な修繕に計画的に着手する必要性が高いことからその資金手当てについて検討する時期になっています。現在各種補助金の可能性を探っているところですが、補助が受けられる場合であっても、相応の自己資金が必要となります。現状の現預金残高水準では限りがあり、寄付金等による資金調達を組織的に行っていくことが重要な課題の一つではないでしょうか。

（会計 村田勝俊 記）

### 歩く会 1 月例会 吾妻山ハイキング

今年も初例会は吾妻山です。1 月 8 日（日）吾妻公園駐車場に 12 名が集まりました。この日も好天に恵まれ駐車場は満杯でした。我々の駐車スペースもなく空くのを待っていました。スペースが空くとすぐに次の車が入って来てこの時間でも朝早くから混み合っています。

12 名が集合し挨拶・準備運動の後、急斜傾工事の為例年の登り口を迂回しながら 9:30 に出発しました。途中観光道路上の橋で休憩しそこで 2 名と分かれ「トンビ岩」を目指しました。トンビ岩には 10:15 そこで少し休止しそこからは迂回道を行き頂上を目指しました。

頂上には 10:55 そこには 20~30 人位いましたが我々が到着したので入れ替わってくれました。頂上では 1 名合流しました。そこで東京方面のパノラマを楽しんで 11:10 に 10 人で下山を開始しました。途中村松峠で一休みそこから急な杉林の中を下り新年会場の「萬来軒」に向かいました。会場には 12:30 に到着し食事のみの 7 名を待ち 12:45 より 17 名で井田泰

彦さんの乾杯で新年会を始めました。心地よい疲れで紹興酒がはかどり昨年の山行や今年の山行予定で大いに盛り上がりました。昨年の計画では特に新井晴天さんのご努力で計画から実施までスムーズに実施出来た事をここで感謝申し上げます。本当にご苦労様でした。PM2:20に新井様の「江戸メ」の音頭で景気良く元気に締めて頂き無事に会をお開きにしました。今後も歩く会、桐生倶楽部が良い1年でありますようにご祈念申し上げます  
(腰塚富夫 記)



## 美術部会

## 大川美術館へ

至る2月9日(木)美術部の行事で生誕百十年、1912年に生まれ36才の若さで他界した松本竣介のデッサン画を鑑賞する。参加者は6名。ようやく沈静化がやや感じられるコロナ禍に美術部としての活動を再開し竣介の世界観を味わった。ただ、平日とは言え10時半から正午までに大川美術館内での来館者が数人しか確認出来なかったのが残念であった。

私の家の庭先には既に春の訪れを思わせる蔭のとうが顔を出し始めているが、まだまだ寒気の最中に穏やかな日差しが注ぐ水道山の方々は目を覚ます様子は見られなかった。

さて、絵画鑑賞に話を戻すと、竣介が西洋画家に影響を受けた中でも私的にはモディリアーニが好きだ。特に今回の展示では裸婦に興味を持った。また、桐生の画家達も紹介されていたが、最近話題の高い山口晃の作品が数点展示されていて、特に桐生市街地の「ショッピングモール」は、新庁舎落成の折にロビー正面でも展示されたらと思いましたが。他にもオノサトシノブや宮地佑治などの作品等、地元のアーティスト作品も数多く展示され、久しぶりに心静まるひと時を過ごせた気がした。社員の皆様にも是非機会を取られ、大川美術館に足を運んで見てはいかがでしょうか。

絵画等の鑑賞はその作品を通し自分自身を見つめ返し、心の洗濯ができる極めて価値あるひと時であると思うのです。この竣介の「デッサン50」は3月12日の日曜日までですが竣介に拘ることなく、生活のリズムをこうした絵画鑑賞に振り分けてはいかがでしょうか。

(関本金三郎 記)





絵画織技術で桐生織伝統工芸士の新井伊知郎さんが建物と文字を織り出し、現代の名工である社員の大澤直也さんが桐の葉とノコギリ屋根と箆をイメージした組子で制作した額に納めた一点物のオリジナル標識

<https://www.youtube.com/watch?v=xgg3b5NtSmE&t=34s>

賞を機に今後も益々一般市民に愛される会館として積極的に種々活動を実施していきたいと考えています。引続き社員の皆さんのお知恵拝借宜しくお願い申し上げます。  
(彦部篤夫 記)

### 桐生倶楽部会館の歴史的風致形成

#### 指定を受けて

- ・日 時：令和 5 年 2 月 9 日(木) 14：30
- ・場 所：桐生市役所本館 3 階
- ・指定者：桐生市
- ・指定物件：桐生倶楽部会館（指定第 12 号）
- ・指定概要：

桐生倶楽部会館は 1919（大正 8）年創建のスパニッシュ・コロニアル様式建造物で、現在毎年 300 件以上の事業を行なっています。本年度は「歴史的風致形成建造物」指定に向け、(1)萩原清史桐生市文化財保護課長に「群馬県内の指定文化財（近代建築）について」とのテーマで県内近代建築中での桐生倶楽部の位置付けを語って頂き、また(2)当桐生倶楽部村田勝俊理事に「桐生倶楽部と桐生倶楽部会館について～まちとともに 103 歳の現役会館」とのテーマで会館の歴史的意義を紐解いて頂き、その後文化財研究委員会メンバーの案内で参加者向け会館内外案内等を実施しました。こうした歴史的風致を伝える桐生倶楽部会館自体と、この中での地道な活動が評価され、この度桐生市より「歴史的風致形成建造物」指定を受けました。なおこの様子は下記桐生市作成 YouTube で閲覧出来ます。

## ようこそ倶楽部へ

### =新入社員紹介=

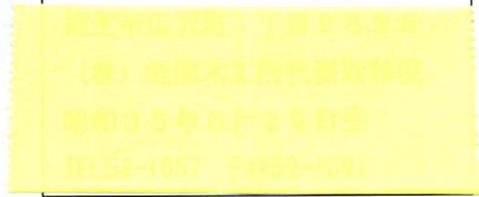
(敬称略)



・三高産業株式会社（法人）  
 桐生市境野町 7 丁目 1 8 6 0  
 代表取締役 高山淳史  
 TEL43-7181 FAX43-5380



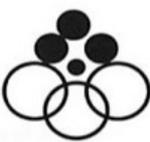
・蛭間 茂



### =桐生倶楽部だより=

- [ 2 月 ]
- ・監査会 ( 2 日 )
  - ・理事会 ( 6 日 )
  - ・美術部会「大川美術館」 ( 9 日 )
  - ・歩く例会「大小山・栗田美術館」 ( 中 止 )
  - ・歩く会世話人会 ( 1 6 日 )
  - ・定時社員総会 ( 2 4 日 )
- [ 3 月 ]
- ・理事会 ( 1 3 日 )
  - ・歩く例会「足利 赤雪山」 ( 1 9 日 )
  - ・月次会「明るい桐生市の未来をつくるため産業観光の推進」 ( 2 2 日 )
  - ・歩く会世話人会 ( 2 3 日 )
  - ・会報委員会 ( 2 3 日 )

一般社団法人 桐生倶楽部 第 253 号  
 2023 年（令和 5 年） 4 月発行  
 発行人 坪井 良 廣  
 編集責任者 桑原 志 郎  
 版下製作者 桑原 志 郎



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町 2 丁目 9 番 36 号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jim@kiryuclub.jp

## ガーデンパーティ

4年ぶり、待ちに待ったガーデンパーティは、残念ながら予報どおり生憎の雨でした。前回、令和元年6月発行の会報の原稿は偶然にも同じ田中一枝でした。

3年間、私たちは新型コロナウイルスによる多くの制約を受けてきました。大きな試練を乗り越えて、今ごく普通の日常生活が如何に大切なものであったかを痛感している方も多いと存じます。

室内での久しぶりのパーティの参加者は80余名、パーティの余興は、倶楽部の社員でもある深津素子さんの結成する女性4人(ピアノ含む)の歌音(かのん)に急遽トランペットも入っての熱演で会場全体が大盛況でした。

久方ぶりの皆さんとの交流、美味しい食べ物と飲み物、特に用意されたワイン10本もあっという間に完売でした。

最後に、このガーデンパーティの成功に向けてご尽力頂いた、行事・交流委員会の皆様に心から感謝申し上げます。準備や運営に携わってくださったスタッフの方々、そして参加してくださった皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

(田中一枝 記)



## 内田先生 (百年名家プレゼンター) ガーデンパーティに来临

5月13日、テレビ「百年名家」のプレゼンター・内田青蔵先生(神奈川大学建築学部教授)が研究室の方3人と共に来桐されました。一行は旧須藤邸(堤町)、重伝建(本町)を見学・視察の後、16:00に桐生倶楽部ガーデンパーティに出席、錦上花を添えられ、「百年名家」のディレクター・板倉裕司さんも合流されました。

パーティーでは内田先生から丁寧なご挨拶を頂きました。雨天の為、会場が2階大広間に変更されましたが、80名を超える出席者一同は3年ぶりの対面で楽しいパーティとなりました。内田先生他の皆さんは桐生倶楽部会館が単に古いだけで無く、実際に社員が集い、憩いの場として現役で使われて居るのをご覧になって、大変感動した様子です。

5人の皆さんは新桐生 18:08 発りようもう号で東京にお帰りになりました。心に残るパーティの一日でした。

(村田豊樹 記)



## 歩く会3月例会 赤雪山へ

3月の歩く会は足利最北部に位置する赤雪山(621m)に登りました。

今回の申込みは11名でしたが3名の都合が合わず欠席となり1名が現地集合、7名で2台の車に分乗し晴天の中、出発しました。8時20分発菱町経由で赤雪沢駐車場に8時50分着。準備をして9時5分に8名で登山口らしき所より出発しました。

歩き始めて沢の道に入るとそこは杉の倒木が横に倒れていました。その杉の木をまたぎ又はくぐってさながら障害物競争みたいな道を30分位登ってやっと杉林を抜けました。下山をしてわかった事なのですがその倒木は2014年の大雪で倒れて余りにも多いのでそのまま手が付かず状態でした。杉林が終わった所で休憩をして稜線までは30分位でした。そこからは頂上までは200~300mでしたが急登で思いのほか時間がかかりました。

10時30分頂上を出発し下山は登りのルートとは別のルートを選びその道は良く整備された道で1時間程で駐車場に着きました。帰路に車で10分程度の場所にあるそば処「十勝屋」に寄りました。評判の店らしく行列が出来ていました。15分程の待ちでしたが「そば」は評判通りで天ぷらも美味しかったです。皆様も時間があれば是非食べてみて下さい。13時に無事桐生倶楽部に着きました。

天候にも恵まれ満開の梅の花も観られ旨い「そば」にも出会いましたので良い山行の1日でした。(腰塚富夫 記)



## 3月月次会

## 笠原康利氏をお招きして

桐生市の将来を考えたとき、産業観光の推進は非常に重要な施策です。今月の月次会の講師は、衰退しているといわれる繊維産業にあって、刺繍アクセサリー000(トリプルオー)を開発、オープンファクトリーを展開し業績を上げている(株)笠原盛会長 笠原康利氏をお招きしてお話を伺いました。

少子高齢化が進行し消滅可能都市の桐生市は、女性が働ける職場づくりが重要である。桐生の特徴は、歴史のある織物の町、独自の技術を持つ企業が多い、新しい技術を取り入れ変化への対応、と説明。桐生の繊維の現状は、資材提供基地、素晴らしい素材でも桐生の名前が出ない、納入単価が抑えられているとし、稼げる製品づくり、つまり値段が高くとも良いとお客様に認めてもらえる製品が必要であり、今ある技術の延長線上にない製品開発が重要である。そうしたことを前提に、制作過程を公開し、製品のこだわりを理解してもらおう。消費者に製品を手にとってもらい、購入や意見を言ってもらおうこと、つまり「オープンファクトリー」を実施することにより、産業観光を進めることができるとした。自分の好きなものは、高価でも買う。ライフスタイルにこだわって商品を選ぶ。周りの人と違う個性的なものは選ばない。野村総合研究所(消費者意識)参照

その後オープンファクトリーの成功事例の燕三条「工場の祭典」を説明、また自身が手掛ける「笠原パーク」の概要を説明 桐生でも「オープンファクトリー」

に取り組むことが大切であると力説された。明るい桐生市の未来に向けての大きな提言をいただいた非常に有意義な月次会でした。(宮地由高 記)



### 歩く会 4月例会 中山道旧街道を歩く

#### 4月月次会 経営者の教養としての 伝統芸能・能楽について

4月の月次会は、4月25日(火)午後6時30分より宝生流 教授囑託の星野 尚香さんを講師に招き大広間で1時間にわたり開催されました。

星野さんの能楽活動の原点は、お爺さまが能楽をされていて、幼少より触れ興味を持ち自然に能楽をしていたとお聞きしました。能楽に携わるうちに能楽の歴史や背景に興味を持ち調べるうちに時のリーダーである貴族や大名へ受け継がれ必修アイテムとなり心のより所、人脈形成等社会の成立ちに大切な役割として発展してきました。

日本のリーダーとしての『経営者の教養としての能楽』を再認識すると共に、底深き真髓を感じたのではないのでしょうか。今後の私たちの活動の参考になればと思います。普段接する事の少ない能楽の世界を享受して頂きました星野さんに感謝すると共に今後のご活躍を社員一同願ひ講演会は終了致しました。

参加人数 42名 (堀明 記)

まず、私の旧中山道に対する認識は、国道18号を車で走っているときに目にしていた旧中山道という標識のある道が中山道の旧街道という認識です。

そして、4月9日はお天気も良く、歩く会にふさわしい天気でした。

見晴台からの眺望、「群馬と長野の境の石」「熊野神社」に詣でる頃はルンルンしてましたが旧中山道に入ると、下りの山道が続き、また道も狭いものですから黙々と歩き続けることになりました。「皇女和宮様は御籠に乗って」と聞いておりましたが、この狭い道を御籠で通れたのだろうか？御籠が通れないようなことはなかったのかしら？その時は強力が背負子で担いだのかしら？(これは多分に「鬼滅の刃」の影響ですが！)などと想像を膨らませていました。当時の旅はなんと大変だったのでしょうか！私たちは気楽に「旅行」に行きますが「旅」に出るときは水杯をしたということも理解できました。

こんな山道で日が暮れてしまったらどうするのだろうか、追剥が出たらどうするのだろうか、想像力を掻き立てられる山行でした。(平岩千鶴子 記)



歩く会 4月例会

春のゴルフコンペ

令和5年度の「春のコンペ」はコロナ禍が終盤の4月22日(土)に桐生カントリーで開催されました。この日は春らしく暖かい晴天に恵まれた気持ちの良い朝でした。今回の出席者は残念ながら委員長が欠席となりましたが、女性1名を含む14名が参加しました。森理事のご挨拶がありルール説明の後、AM9:18からスタートしました。日中は風もなく絶好のゴルフ日和の中、皆様笑顔でプレーを楽しみました。終了後はクラブハウス内で表彰式を行いました。新ペリア方式の競技方法でグロススコアとは違う順位の発表で自分がどの順位になるのか分からず皆でワイワイ楽しみながら、ケーキとソフトドリンクで懇親を深めました。結果は以下の通りです。

優勝 柳 明彦
準優勝 腰塚 富夫
3位 朝倉 富美夫
ベスグロス賞 41.41.82 朝倉 富美夫

次回の「秋のコンペ」は10月28日(土)桐生カントリークラブを予定しておりますので又、皆様の参加をお待ちしております。(腰塚富夫 記)



2号室・4号室カーテン新調しました!



ようこそ倶楽部へ

=新入社員紹介= (敬称略)

・横浜銀行桐生支店(法人)
桐生市本町6-371-2
TEL22-7131 FAX47-5064

麻雀大会 成績発表

4月7日(金)パスタタイムにて8人参加で行われました。

優勝 水越稔幸
準優勝 新井晴夫
三位 朝倉富美夫

6号室シャンデリア修繕の為

ガーデンパーティー善意の募金で、44,843円集まりました。ありがとうございました。修繕終了後会報に掲載します。

=倶楽部だより=

Table with 2 columns: Date and Event Name. Includes events for April and May such as '麻雀大会', '歩く例会', '理事会', etc.

一般社団法人 桐生倶楽部 第254号
2023年(令和5年)6月発行
発行人 坪井良廣
編集責任者 桑原志郎
版下製作者 桑原志郎



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jim@kiryuclub.jp

6 月月次会  
文化財研究委員会の共催事業  
6 月 23 日

坪井理事長より

本講演会は群馬県にある豊かな文化財を紹介頂き、その重要性や魅力を視聴者の皆さんと共に理解したい。文化財の背後にあるストーリーや意義を深く理解し、私達自身が文化財に対する関心を高めることを目指したく今回企画した。

これを機会に文化財への理解を深め、群馬県内にある文化遺産を守り継いでいく一助にしたい。

今回は桐生倶楽部 6 月月次会と文化財研究委員会（第 1 回講演会）の共催事業として文化財講演会を執り行なった。講演テーマは「群馬県の国指定文化財について（副題；群馬県内にある日本の宝）」と題し、群馬県文化財保護課係長笹澤泰史（ささざわやすふみ）氏を講師にお迎えした。講演内容は文化財の体系を一覧表・図にし、一つひとつ丁寧な説明を受けた。現在桐生倶楽部は桐生市の重要文化財指定を受けており、今後当面群馬県指定を標榜する桐生倶楽部員に取っての知識深耕の機会となった。また時を同じくして国の文化審議会から「桐生天満宮を国指定にするよう永岡文科大臣に答申する」とのニュースが入り、この話題も講演会に華を添える結果となった。

下記「文化財の体系図」表を準備、これを基に説明、その後会場から 5 件ほ

ど質問（補説含む）を受け、それに対し講師答弁が行われた。今回は市民一般にも参加を呼掛けた。質問の中で一般市民の方より「今後桐生倶楽部が県・国指定を受けることを目指す場合、如何なるプロセスを踏むのか・その場合の審議は・・・」との核心に触れる質問もあった。その質問に対し（笹澤講師から）  
①第 3 者審議会がありそこで提出案件は審議される。 ②実地調査を行ない文化財に資するか否か検討することとなる旨の答弁がなされた。

現在群馬県文化財保護課には 8 人の係員がおり、上記①～⑧を取扱っている。国指定文化財になるには市指定→県指定の step を踏む場合も有れば、一機に国指定文化財として審議に入る場合も。 (彦部篤夫 記)

## ★説明資料「文化財の体系図」

- ①有形文化財 ②部系文化財 ③民俗文化財
- ④記念物 ⑤文化的景観
- ⑥伝統的建造物群 ⑦文化財の保存技術
- ⑧埋蔵文化財



## 7月月次会

量産ではない楽器  
の追求

7月の月次会は7月7日午後6時30分より伊藤丈晃氏（伊藤丈晃ヴァイオリン工房代表）を講師にお招きし開催されました。

格付け番組でその音色を聴き分けるストラディバリウスの話、アンドレア・アマティから始まる弦楽器製作者の流れ、古今東西をクロスオーバーする想像力として音楽と数学の繋がり等々ヨーロッパ（西洋）～アジア（東洋）の弦楽器についてその熱い想いを語っていただきました。伊藤さんの”ヴァイオリン愛”が随所に伝わる1時間でした。



2007年より桐生でヴァイオリン工房を構えている伊藤さんの益々のご活躍を期待しております。

参加人数 28名

モニター台の設置により30センチ高くなったモニターはとても見やすく好評でした。

又、当日は七夕ということでロビーにて参加者の皆様に短冊に願い事を記入していただき飾り付けました。ご協力ありがとうございました。（市川孝江 記）



## 5月歩く会例会

## 高尾山ハイキング

今にも降りそうな曇天の下、圏央道高尾ICを出てすぐの高尾山ケーブルの清滝駅駐車場に着いた。コースマップによると頂上までは1号路から6号炉までの様々なコースがあり参加者12名の内、歩いて登る7名とケーブルカーを利用する5名に分かれる。

標高差約400m、コースタイム100分の6号路で599mの頂上を目指す。8時30分予定より早く駅前を出発。

沢沿い歩きの人気コースでゴールデンウィークと紅葉の11月は登りだけの一方通行になるとのこと。雨上がりだったが道はぬかるんだところはほとんど無くなだらかでよく整備されている。新緑の中気持ち良く足が進む。

登山道には絵地図を描いた案内板が頂上の下近くまでを14のポイントに分け設置されていて進捗状況が分かり易い。各ポイントで足を止めて一呼吸、一瞬の休憩だが疲れが緩和される。途中、弘法大師伝説洞窟の岩屋大師、更にしばらく行くと薬王院の水行道場の一つである

琵琶滝等の側を通過して進み工程の三分の二になる大山橋に到る。その先、道が川状になっていて飛び石の上を渡っていくスポットがあり慎重に進む。最後は急登になったが立派な木造階段が300余段続く。最後の力を振り絞って登り切ると目の前が開け頂上間近の5号路との交差点に出る。10時10分頃頂上着、天気悪く展望無し、コースタイム通り。ケーブルを使っての1号路グループと合流。一休みしてから下山開始する。頂上から少し下った展望台で雲の切れ目から八王子市の街並みが見えた。

雨が降り出し傘をさしながら天平の時代高僧行基により開山されたと言う薬王院まで山道を下り、さらに舗装されたケーブル高尾山駅からの参道を下る。老若男女が普通の服装で大勢登って来る。高尾山は本来信仰の山だが首都圏の憩いの場であることも実感した。高尾山駅からケーブルで清滝駅まで下り、土産物街で名物とろろそばを食べ集合場所のミュージアム(無料休憩所)へ。悪天候のため予定を早め帰路に就く。

天候には恵まれなかったが初めての高尾山のメインルートが無事歩く事が出来た楽しい一日だった。天気の良いとき再度訪れ展望台から左にスカイツリー、中央の富士山、右に南アルプス農鳥岳の眺めを見てみたい。(岩崎孜郎 記)



桐生倶楽部ガーデンパーティーの翌日の朝6時に出発。参加者は12名であった。7時20分高坂SA発 8時30分高尾山駐車場に到着。ここでメンバーは登山組とケーブルカー組に分かれた。このケーブルカーは日本一の急勾配といい、手すりに捕まる必要のある箇所もあった、両方の組とも薬王院までは雨模様の中を歩く。登山道は広く薬王院への長い階段を除いて歩きやすかった。空模様は今にも降り出しそうな状態だが、新緑の道は美しい。老若男女を交えた登山者はまばらである。11時に山頂着。晴天時には正面に白くそびえているはずの富士山は雲に覆われて見えず、わずかに手前の相模湖が広がるのみであった。間もなく雨は本降りとなり、下山には全員がケーブルカーを利用した。天候には恵まれなかったが、梅雨前の新緑の登山の雰囲気味わえ、名物のそばなども賞味し、思い出に残る山行であった。昼食後は、高尾山の動物の剥製、植物標本、自然の環境を展示した高尾599ミュージアムのモダンな博物館に12時半に集合した。13時半に駐車場発、帰途についた。途中で上里SAに寄って、15時半に桐生倶楽部に到着した。(山口一郎 記)





高尾山山頂にて

# ようこそ倶楽部へ

## =新入社員紹介=

(敬称略)



なかやまけいこ  
・中山佳子

### ※ インフォメーションディスプレイ

令和5年3月5日に桐生ロータリークラブより桐生ロータリークラブ創立七十周年記念事業として桐生倶楽部に寄付していただきました。また、6月に後ろの座席の方が見やすいように30cm高くした台を取り付けました。皆さんご利用下さい。



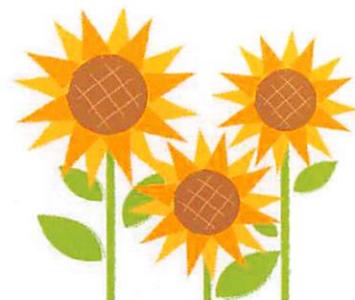
### =桐生倶楽部だより=

#### [ 6月 ]

- ・歩く会「玉原高原ハイク」 (中止)
- ・文化財研究委員会 (6日)
- ・歩く会世話人会 (8日)
- ・理事会 (12日)
- ・月次会「群馬県の国指定文化財について」 (23日)

#### [ 7月 ]

- ・月次会「量産ではない楽器の追求」 (7日)
- ・理事会 (10日)
- ・会報委員会 (21日)
- ・歩く例会「北八ヶ岳・横岳」 (23日)
- ・歩く会世話人会 (27日)



一般社団法人 桐生倶楽部 第255号  
 2023年(令和5年)8月発行  
 発行人 坪井良廣  
 編集責任者 桑原志郎  
 版下製作者 桑原志郎

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2丁目9番36号 一般社団法人 桐生倶楽部  
TEL0277-45-2755 FAX0277-45-2980 E-mail jimukiryuclub.jp

## 9月 月次会 『昔は良かった』 なんて、もう云わせない！

9月13日、9月月次会は(株)アンカー社長川口貴志氏をお招きしてご講演会を開催しました。参加者65名、大広間が満席になりました。嬉しい悲鳴です。



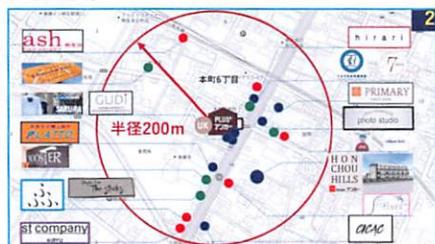
川口氏は趣味が“一人旅全国市町村めぐり”全国制覇までもう一歩との事。

今回の講演は

- ①外から続々移住！最新具体例
- ②転移と移住の違いにヒントあり
- ③桐生らしい「空き家解決法」とは？を切り口にお話をして頂きました。

36年前スターバックスが地方へ出店計画があるなか桐生市は全く計画がなかったとの事。

この事がきっかけで桐生復活へのチャレンジをはじめました。“まちづくり”をライフワークにして、空き家（古民家も含む）を活用して美容室、レストラン、雑貨店等いろいろと創業のお手伝いをしております。桐生市への移住の方の窓口となり、2014年にPLUS+アンカー（古民家カフェ）を開設し各種イベントを開催し、今では PULS+アンカーを中心に新たに64店舗が桐生街に溶け込んで活動しています。



その後 2019 年若手人材育成のためにまちづくり会社“UNIT KIRYU(株)”川村氏と創業いろいろな方面で活躍しております。

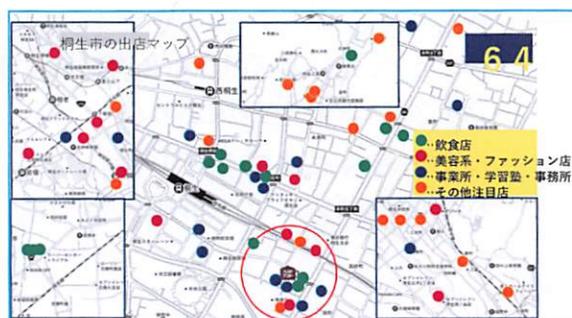
又、川村氏にもご講演をいただき現在の活動内容の報告がありました。



最後にアンカー様のスタッフより沢山の最新事例の発表がありました。

これからの桐生のあり方として創業した各店舗が長く根付く様な方向を模索中とのこと。

最後に来場者のみなさんは笑顔で元気をもらって帰られました。川口様、川村様スタッフの皆さんありがとうございました。(桑原志郎 記)



7月歩く会例会

北八ヶ岳・横岳



 梅雨明けした7月23日。私達15名は極上の景色と涼を求め北八ヶ岳・横岳2,480mを目指し出発しました。

途中、霧が濃くなり天候が不安になりましたが、駐車場に着くと既に沢山の車が止まって居ました。記念撮影をして100人乗りの大型ロープウェイで7分、標高差473mを一気に登ると目の前には、噴火により生まれた溶岩台地の坪庭の素晴らしい景色が広がっていました。

坪庭散策組と横岳登山組に別れ出発！登山道はゴツゴツ大小の岩で歩きづらいです。途中、小さな子供達にも会いました。ゴゼンタチバナ、ハクサンシャクナゲなどの高山植物や可愛い苔などを写真に撮りながら、ゆっくり1時間半で横岳南峰2,472mに到着しました。



ゴゼンタチバナ



ハクサンシャクナゲ

残念ながら景色は霧の中とがっかりしつつ、5分先にある北峰2,480mに着くと霧の間から青空が広がり向いにある蓼科山が大きく見え始めました。もう少し晴れていればアルプスの山々が一望できる

そうです。素晴らしい景色を写真に収め、昼食もそこそこに下山です。

途中ヒュッテ近くの脇道を3分程下った七ツ池に立ち寄り、1時間ほどでロープウェイ山頂駅に到着。山のカフェ展望台で一休み。肌寒いくらいでした。帰路で立ち寄った横川SAはとろけるような暑さでした。

八ヶ岳・横岳は登山初心者から子供まで気軽に登れて景色を楽しめる魅力的な山でした。 (丹羽恵美子 記)



 7月の歩く会例会は、長野県の北八ヶ岳・横岳です。朝6時、参加者15名にて桐生倶楽部を小型バスで出発。途中、横川SAにて休憩をとり、9時30分頃に北八ヶ岳ロープウェイ山麓駅に到着。9時40分に参加者全員でロープウェイに乗り、標高1,771mの山麓駅から標高2,237mの坪庭駅に標高差466m、乗車時間8分程で到着しました。

坪庭は自然が作った日本庭園で、素晴らしい景観を見せてくれました。坪庭から北横岳・標高2,480mの山頂を目指し途中、岩場が多かったものの標高差243m、距離にして2.2K、時間は1時間～

1時間30分程で山頂に到着しました。登山中は曇天でしたが、登頂時には晴天となり絶景を堪能できました。山頂では大勢の登山客がおり、その中で昼食をした後、山々の景色を見ながら安全に下山しました。

帰りのロープウェイを待つ間、当日は残念ながら、北アルプス・中央アルプス・南アルプスの三大アルプス山頂は、雲がかかり見られませんでした。坪庭駅の展望デッキにて、山岳パノラマを見ることができました。帰路は予定通り、17時に桐生倶楽部に無事着きました。雄大な景色を満喫できた1日でした。

(金子幸弘 記)



### ぶらりまち歩き例会

#### 歴史とアートの街足利



8月27日歴史とアートの街足利をぶらりと歩いてきました。

足利は小俣町、葉鹿町を挟んで桐生と共存共栄して現在に至り、又、キリスト教の布教も東ルートは足利から桐生へこの前のぶらり教会巡りでお聞きしました。バスが移動手段の最盛のころは桐生市内を「東足利」行きのバスが一時間に5.6

本でしょうか、数多く走り、最近の足利をご存知ですかと問えば「仕事や用事ではいったが・・・」という方々が多く細かくは承知していないのではないのでしょうか。参加者8人は足利駅からぶらり街歩きを始めました。快晴、朝から日差しが強くもう暑い中を駅前通りから中央通りに入り足利学校入り口通り過ぎて鑿阿寺入口へ。大門通りを鑿阿寺へと石畳の道を歩く、まだ朝が早いのか人影はまばらですが沿道のお店は開店準備、太鼓橋を渡り門から境内に入ると木々が多く爽やかな中を散歩する人、ハトに餌をやる人など、贅沢な楽しみ方がいろいろとできるのはいいね。境内をぶらりと一回りして足利学校へ向かう、堀沿いから足利学校裏側から東側をめぐって入徳門から受付(参観料 420円/人)、学校門から入り自由見学、順路に沿って方丈に入る、大きな部屋・高い天井大きな開放、暑さを忘れる・いつまでも座って居たい何とも言えないとてもいい感じ。

足利学校から小道で大門通りを横断して「足利商工会議所(ギャラリーカッサ)に向かう、大門通りには多くの人が出て賑わっているが、これも鑿阿寺と大門通りが人を呼ぶのか。

小道で中央通りを横断してギャラリーカッサに、ここは元足利銀行本店で1階大金庫をギャラリーとして、地下1階を市民ギャラリーとして足利の歴史を展示し年中無休で無料開放して、土日はシルバー人材センターの方が受付をしている必見のギャラリー。

次は小道で足利市立美術館に向かう、この美術館は11階建て市営住宅の1階から3階までを美術館として、4階から



市営住宅としている。展示室は2階及び3階で入館料は展覧会によって異なりますが、今回は710円ですが両毛広域都市圏内の65歳以上の方は証明するものの持参でいつでも無料とのことです。今回も館内に結構来館者が見うけられるのも人気の企画であったのでしょうか。足利市立美術館で今日のぶらり街歩きは終わり、昼食を済ませて桐生に戻りました。今日のぶらり街歩きを振り返ってみると個人的見解になりますが短時間のうちに歴史とアートを見て感じて、桐生と違った新しい足利を見た感じになりました。又、鏝阿寺・足利学校周辺の人の賑わいは道路がきれいに整備されて歩くのが楽しくなってくることや周辺に駐車場も多くそれが無料であるのはうれしい感じです、又、足利には多くのギャラリーがありますので一度出かけて新しい発見を試みませんか。(新井晴夫 記)



これは昭和17年6月に倶楽部2階大広間で行われた結婚披露宴の記念写真。昭和10年代の倶楽部内部がわかる貴重な資料です。提供していただいた社員栗原信治さんに感謝いたします。新郎は栗原さんの叔父さんとのことです。

(村田勝俊 記)

### = 桐生倶楽部だより =

#### [ 8月 ]

- ・理事会 (7日)
- ・ぶらりまち歩き「足利学校から美術館」 (27日)

#### [ 9月 ]

- ・歩く例会「尾瀬沼トレッキング」 (中止)
- ・理事会 (11日)
- ・月次会「昔は良かった」なんて、もう云わせない (13日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・役員特別懇談会 (25日)
- ・会報委員会 (28日)

#### [退会社員](敬称略)

- ・倉林利雄(ご逝去)
- ・原田幸子(ご逝去)
- ・金井 強(ご逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第256号  
 2023年(令和5年)10月発行  
 発行人 坪井 良廣  
 編集責任者 桑原 志郎  
 版下製作者 桑原 志郎